

2026 年度 鍼灸学科 シラバス

学科・学年・コース 鍼灸学科・1年・全コース

科目名 心身健康科学 I

授業形態 講義

単位数(授業時数) 2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人間のこころとからだは密接不可分であるとする心身一如(心身相関)の考え方について、その哲学、宗教的、科学的な背景を学習するとともに、心身一如を支える科学的メカニズムを学び、人間の健康の実現に応用する視点を修得することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

1. 哲学や思想史のなかで心身一如がどのように扱われてきたのかを説明できる。
2. からだの感覚の生理学的仕組みを説明できる。
3. 体表への刺激が、こころや身体機能にどのような影響を与えるか説明できる。
4. 身体機能の振動現象とこころの関連性を説明できる。
5. 人間の健康の実現に心身一如の科学を応用するために必要となる視点を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

第I章 心身一如と心身相関の科学

古くから哲学、宗教の領域で議論されてきた心身一如の思想を概観し、心身一如が注目される背景を人間の健康や幸福の実現という観点から科学的に捉え直し、その意義を社会的背景を踏まえながら探る。

第II章 現代科学と心身一如 - 1 からだの感覚と幸福感・健康

心身一如の仕組みについて、からだの感覚の基本的仕組みと、からだの感覚がこころや各種身体機能に及ぼす作用について学ぶ。心身の健康や幸福感に関わる種々生体の仕組みも学ぶ。この学習を介して、鍼灸・あんま・指圧・マッサージなどの体表に刺激を加える療法の効果の科学的仕組みを理解する。

第II章 現代科学と心身一如 - 2 からだのリズムとこころ

人間の身体機能に備わる様々なゆらぎ(振動現象)に注目して、生体の調節機構の関連やこころとの関連性を学ぶ。特に呼吸器系の振動現象とこころの関係について、脳科学の視点で理解する。心身相関の観点から人間の健康(Well-being)の実現に向けて応用するために必要となる重要な視点を考察する。

第III章 東洋医学からみた「心身一如の科学」の可能性 - 1 心身の調和(心身一如)と今日的な健康

「心身一如の科学」が心身相関の科学(心身健康科学)でもあることを理解する。

第III章 東洋医学からみた「心身一如の科学」の可能性 - 2 心身一如の科学と東洋医学

東洋医学の考え方に関連する現代科学の知見を理解する。

III. 教育資源(テキスト、その他)

久住眞理/久住武/鈴木はる江/小岩信義「心身一如の科学」

IV. 評価

科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。

V. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	心身健康科学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。

2. 行動目標(SBOs)

1. 健康と生活習慣の関係を概念として説明できる。
2. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる。
3. アルコールの健康影響を説明できる。
4. 喫煙の健康影響について説明できる。
5. 運動の意義と効果を説明できる。
6. 健康増進法、健康日本 21(第二次)について説明ができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

第1章 生活習慣病の特長:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ

第2章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ

第3章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ

第4章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ

第5章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ

第6章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ

第7章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ

第8章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康被害について学ぶ

第9章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ

上記以外として、健康日本 21(第二次):2013 年 4 月から 10 年計画でスタートした健康増進法を基盤とした国の施策に対しても関心を向けて下さい。

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:まるごとわかる!生活習慣病

IV. 評価

科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。

V. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	心身健康科学Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

心理学とは、人間のこころの機能や行動を科学的に解明する学問であり、「こころ・からだ・文化」の側面から人間を総合的に理解するために欠くことのできない領域です。本科目では、人間の社会生活との接点から、心理学についての理解を深め、人々が心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に心理学を応用する方法について学びます。さらに「自立と共生」「創造性と人間性」を基礎に、日常および医療現場で役立つコミュニケーション力を養います。

2. 行動目標(SBOs)

1. 心理学を科学の一分野として説明することができる。
2. よりよいコミュニケーションについて、心理学に基づいて説明することができる。
3. よりよいコミュニケーションの基盤として、こころ・からだ・文化の側面から人間を総合的に理解することができる。
4. 自分および他者とのよりよいコミュニケーションのために、心理学を応用する方法を説明することができる。
5. 人々が心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築に心理学を応用する方法を説明することができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

1. こころの歴史

心理学の歴史と今後の発展について学ぶ

2. 脳と知覚のメカニズム

脳の構造と心のはたらき(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)について学ぶ

3. 学習と思考のメカニズム

より高度で複雑な心のはたらき(学習、記憶、思考、知能)について学ぶ

4. 対人関係の心理学

社会心理学の立場から、個人レベルから社会レベルにおける人間の行動および他社とのコミュニケーションについて学ぶ

5. 人間の発達

発達心理学の立場から、発達段階に応じた特徴と心のはたらきについて学ぶ

6. 心の健康と心理療法

心の健康に関する諸側面と様々な心理療法とともに他社とのコミュニケーションのあり方について学ぶ

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

「史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本」、大井晴策(監修)、ナツメ社、2012 年

Ⅳ. 評価

選択式の科目修了試験において 60 点以上を合格とする。

Ⅴ. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。

本科目を「心理学」としてのみ捉えるのではなく、よりよい自己理解及び日常生活の中で営まれる自分と他者の関係理解につなげ、テキスト履修を成長のきっかけとしてください。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	生物学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

生理学や解剖学を学ぶ上で必要な生物学の基礎知識の習得を目標とする。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 生物体の構造と機能の基本単位は細胞であることを理解する。さらに、細胞の中の細胞小器官が協調的に働くことによって細胞・組織・器官・個体が支えられ、生命活動を営むことができることを理解する。
- 2) 細胞を構成する分子には水、タンパク質、脂質、炭水化物、核酸などがあり、細胞の機能はこれらの物質の物理的・化学的性質に基づいていることを理解する。
- 3) 体細胞分裂や減数分裂の過程を通して、核内のDNAが複製され娘細胞に分配される意義を理解する。
- 4) 遺伝現象に見られる法則性を学び、血液型などのヒトの遺伝現象の生じるしくみを理解する。
- 5) DNAの遺伝情報をもとにタンパク質がつくられる過程を理解し、フェニルケトン尿症や鎌状赤血球貧血症などの遺伝性疾患の起こるしくみを理解する。また、遺伝子研究の応用としての遺伝子操作や遺伝子治療のしくみを学習する。
- 6) 生体内での代謝の過程を理解し、エネルギー調達のはたらきとして内呼吸を、エネルギー利用の例として筋収縮のしくみを学習する。

II. 学習方略

1. 授業日程・内容

第1編 細胞と分子

- ①生命の単位—細胞
- ②細胞を構成する物質; 炭水化物、脂質、タンパク質、核酸
- ③細胞の構造とはたらき; 動物細胞と植物細胞、真核細胞と原核細胞
細胞の微細構造
- ④細胞膜を介した物質輸送
細胞への物質の出入り

第2編 代謝

- ⑤代謝とエネルギー; ATP
酵素とそのはたらき
- ⑥呼吸のしくみ
発酵

第3編 遺伝情報の発現

- ⑦DNAの構造と複製

細胞分裂と遺伝情報の分配

⑧タンパク質の合成; 転写と翻訳、伝令RNAの遺伝暗号表

⑨遺伝情報の変化と形質; 鎌状赤血球貧血症、ヒトの代謝異常、ダウン症の起きるしくみ

遺伝子のはたらきと細胞の分化

⑩遺伝子導入; 遺伝子操作(大腸菌によるヒトインスリンの生産)

遺伝情報と医療; 遺伝子治療

⑪まとめ I

第4編 生殖・発生・遺伝

⑫減数分裂

⑬幹細胞と細胞分化; ES細胞とiPS細胞

⑭遺伝の基礎; 一遺伝子雑種の遺伝

⑮いろいろな遺伝; 複対立遺伝子(ヒトのABO式血液型)

性と遺伝; 性決定の様式

第5編 生物の生活と環境

⑯ニューロンとその興奮; 興奮の伝導・伝達

⑰筋肉の構造と収縮

⑱まとめ II

⑲解説と復習

2. 授業形態

講義及び作業(作業プリント使用)

作業; ①DNAの遺伝情報に基づくタンパク質の合成

②大腸菌によるヒトインスリンの生産

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

フォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁監修(数研出版)、教科書準拠の配布プリント

Ⅳ. 評価

試験及び平常点(作業プリントの提出状況等)により評価

Ⅴ. 注意点 その他

生理学や解剖学を理解するための基礎を学ぶ。知識習得のためには、毎回の講義に集中し、理解できない内容があれば教科書で確認するなど、日々の積み重ねが重要である。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	国語
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医学用語、特に東洋医学用語に慣れていくとともに、東洋医学の基本知識を身につける。(毎時間、経穴について学習する。)

また患者さまをはじめとする人とのコミュニケーションの取り方、併せて一般的な常識力をつけていくことを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 医学用語や東洋医学用語の読み書きができる
- 2) 一般常識(敬語やマナー)を習得する

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

①東洋医学について①	講義
②一般常識①	講義
③一般常識②	講義
④東洋医学について②	講義
⑤東洋医学について③	講義
⑥東洋医学用語①	講義
⑦東洋医学用語②	講義
⑧西洋医学用語①	講義
⑨西洋医学用語②	講義
⑩一般常識③	講義
⑪試験の説明	講義
⑫振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

プリント

IV. 評価

成績評価は授業内態度、出席日数、小テスト、学期末の筆記試験の総合評価

V. 注意点 その他

- ①講義には板書を筆記するための用具を毎回持参
- ②遅刻・欠席に注意すること
- ③講義中の居眠り・雑談は減点対象になるので注意すること

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	保健体育
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

身体活動がどのような仕組みで成り立っているかを考えることは、医療人として患者をより健康に導くために必要な要素である。そのため本講義は、運動の基礎となる骨格や関節の構造、周辺の代表的な筋の機能や生理学的応答、および運動時の傷害について理解することを目標とする。

2. 行動目標(SBOs)

運動における 1) 骨格筋の機能および生理的応答、2) 運動の力学的特性、3) 運動による傷害を学習し、理論的な運動処方を作成することができる。

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

① 基本的な身体と運動の仕組み	講義
② コンディショニングの手法と理論	講義
③ 暑熱下運動と熱中症	講義
④ 骨格筋の基本的な構造と機能	講義
⑤ からだの構造や機能と傷害 ～上肢～	講義
⑥ からだの構造や機能と傷害 ～脊柱・体幹～	講義
⑦ からだの構造や機能と傷害 ～股関節・大腿～	講義
⑧ からだの構造や機能と傷害 ～膝～	講義
⑨ からだの構造や機能と傷害 ～足・下腿～	講義
⑩ からだの構造や機能と傷害 ～まとめ～	講義
⑪ まとめ	
⑫ 講義・試験の振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 講義ごとに資料を配布します

参考図書: 必要があれば各自参考にしてください

◎『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』医学書院, 2016(第3版).

◎『カパンジー機能解剖学』医歯薬出版社, 2019(第7版).

◎『身体運動の機能解剖』医道の日本社, 2002.

◎『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版社, 2018(第3版).

◎『アスリートのための解剖学: トレーニングの効果を最大化する身体の科学』草思社, 2020.

◎『教養としてのスポーツ科学』大修館書店, 2011.

IV. 評価

筆記試験により評価する

V. 注意点 その他

解剖学や生理学の内容と深く関わります。他授業との関連性も含め復習をよく行う様にして下さい。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	医療と健康
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ・健康の概念について学習する。
- ・社会的ニーズの多様化に適切に対応できる能力を身につける。
- ・健康と鍼灸治療の関りについて見識を高め理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- ・健康の概念について理解すること。
- ・東洋医学、特に鍼灸の歴史や医療制度について理解し述べることができる。
- ・健康について鍼灸治療の役割や方法を述べるができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-------------------------------|----|
| ①社会的ニーズと鍼灸師の役割／健康について | 講義 |
| ② 医療・東洋医学(鍼灸)の歴史1 | 講義 |
| ③ 医療・東洋医学(鍼灸)の歴史2 | 講義 |
| ④ 医療制度の現状 | 講義 |
| ⑤ 医療保険制度と介護保険制度、あはき治療と療養費払い制度 | 講義 |
| ⑥ 地域で期待されるあはき師の役割 | 講義 |
| ⑦ 高齢社会におけるあはき師の役割1 | 講義 |
| ⑧ 高齢社会におけるあはき師の役割2 | 講義 |
| ⑨ 少子化社会におけるあはき師の役割1 | 講義 |
| ⑩ 少子化社会におけるあはき師の役割2 | 講義 |
| ⑪ まとめ | |
| ⑫ 振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ① 社会あはき学
- ② 配布資料

IV. 評価

- ① 定期試験(筆記試験)にて実施

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	解剖学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)ⅴ

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

解剖学 I は人体の骨格の基本である骨・筋について学ぶ。骨と関節の構造について学習する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①骨の名称および、その骨の特徴的な形状について
- ②関節の構造・種類について
- ③骨組織について

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①解剖学総論・骨学総論	講義
②脊柱(総論・構成)	講義・実習
③脊柱(頸椎・胸椎)	講義・実習
④脊柱(腰椎・仙椎)	講義・実習
⑤胸郭・上肢(上肢帯)	講義・実習
⑥上肢(上腕・前腕・手指)	講義・実習
⑦関節の構造・上肢の関節	講義・実習
⑧下肢(下肢帯)	講義・実習
⑨下肢(大腿・下腿・足指)	講義・実習
⑩下肢の関節	講義・実習
⑪復習(骨模型)	講義・実習
⑫振り返り	講義・実習

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書「解剖学」

参考図書「イラスト解剖学」

骨模型(授業開始までに、グループ毎に準備をすること)

色鉛筆(赤色・黄色・青色・緑色の4色)があると望ましい。

IV. 評価

定期試験、確認テスト、課題提出

V. 注意点 その他

平常時の課題提出も評価の対象とします。コツコツとした学習が必要なため、必ず毎週課題は提出してください。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	解剖学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人体の構造について、特に消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、循環器を中心に学習する。鍼治療のリスクとの関連についても紹介する。

2. 行動目標(SBOs)

各臓器の構造について述べられるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

①消化器1	講義
②消化器2	講義
③消化器3	講義
④消化器4	講義
⑤消化器5	講義
⑥呼吸器1	講義
⑦呼吸器2	講義
⑧呼吸器3	講義
⑨泌尿器1	講義
⑩泌尿器2	講義
⑪まとめ	講義
⑫中間評価	
⑬振り返り	講義
⑭生殖器1	講義
⑮生殖器2	講義
⑯生殖器3	講義
⑰循環器1	講義
⑱循環器2	講義
⑲内分泌1	講義
⑳内分泌2	講義
㉑組織	講義
㉒体表構造	講義
㉓まとめ	
㉔振り返り	講義

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

解剖学(医歯薬出版株式会社)

配付プリント

Ⅳ. 評価

定期試験

Ⅴ. 注意点 その他

事前に必ず教科書を読んでおいて下さい。

色ペンが4色(赤・青・黄・緑)あると便利です。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	解剖学Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

脊髄神経・循環器を理解し、鍼灸臨床に役立てる

2. 行動目標(SBOs)

- ①脊髄神経の概要を理解する
- ②各神経叢から分かれる神経を理解する
- ③末梢神経の走行を理解する
- ④心臓の構造について理解する
- ⑤動静脈・リンパの走行を理解する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

テーマ

- | | |
|---------------|----|
| ①脊髄神経総論、頸神経 1 | 講義 |
| ②頸神経 2 | 講義 |
| ③胸神経 | 講義 |
| ④腰神経・仙骨神経 1 | 講義 |
| ⑤仙骨神経 2・前半まとめ | 講義 |
| ⑥皮膚分節、自律神経 | 講義 |
| ⑦動脈 1 | 講義 |
| ⑧動脈 2 | 講義 |
| ⑨動脈 3・静脈 1 | 講義 |
| ⑩静脈 2・後半まとめ | 講義 |
| ⑪総まとめ | |
| ⑫振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

解剖学(河野邦雄・伊藤隆造著、医歯薬出版株式会社)

配布プリント

IV. 評価

平常点と定期試験の総合評価

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	生理学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ・医療人として必要な知識を積み上げる。
- ・臓器の働きと機能を学び代謝(身体の中の物の流れ)を理解し、正常(健康)な身体の維持のメカニズムを把握する。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) はじめに生命現象の特徴を、次いで、体を構成する細胞の構造と働き、細胞内での物質代謝、細胞内外を満たす体液の組成や働きなど、生理学を学ぶうえでの基礎事項を説明できる。
- 2) 最初に血液の組成とその機能について、次いで血液の循環を司る心臓と血管系の働きについて、最後にリンパ系について説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①	第1章「生理学の基礎」1	生理学を学ぶうえでの基礎事項	講義
②	第1章「生理学の基礎」2	生理学を学ぶうえでの基礎事項	講義
③	第1章「生理学の基礎」3	生理学を学ぶうえでの基礎事項	講義
④	第1章「生理学の基礎」4	生理学を学ぶうえでの基礎事項	講義
⑤	第2章「循環」1	血液の組織とその機能	講義
⑥	第2章「循環」2	血液の組織とその機能	講義
⑦	第2章「循環」3	血液の組織とその機能	講義
⑧	第2章「循環」4	心臓と血管系、リンパ系の働き	講義
⑨	第2章「循環」5	心臓と血管系、リンパ系の働き	講義
⑩	第2章「循環」6	心臓と血管系、リンパ系の働き	講義
⑪	まとめ		講義
⑫	振り返り		講義
⑬	第3章「呼吸」1	外呼吸と内呼吸	講義
⑭	第3章「呼吸」2	呼吸器系の構造と機能	講義
⑮	第3章「呼吸」3	肺機能	講義
⑯	第3章「呼吸」4	ガス交換とガスの交換	講義
⑰	第3章「呼吸」5	呼吸運動とその調節	講義
⑱	まとめ		
⑲	振り返り(試験レビュー)		講義

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

「生理学 第3版」(社)東洋療法学校協会編 内田さえ、原田玲子 他著 医歯薬出版(株)

Ⅳ. 評価

定期試験(ペーパー試験)にて実施

Ⅴ. 注意点 その他

復習を十分行い、知識を内容で理解して身に付けるように心がけて下さい。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	生理学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人体におけるそれぞれの機能的役割を正確に理解し、統合的な人体の仕組みを説明できる。

2. 行動目標(SBOs)

- (1)腎臓の尿の生成機構と細胞外液成分の濃度調節、膀胱の尿排泄機構を説明できる。
- (2)ホルモンの一般的性質を述べ、次いで各ホルモンの作用と分泌調節について説明できる。
- (3)生殖機能の特徴と、成長期と老年期の特徴を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 第7章「排泄」腎臓の働き・腎循環	講義
② 第7章「排泄」尿生成	講義
③ 第7章「排泄」腎臓と体液の調節・蓄尿と排尿	講義
④ 第8章「内分泌」ホルモンの特徴	講義
⑤ 第8章「内分泌」ホルモンの種類とその働き1	講義
⑥ 第8章「内分泌」ホルモンの種類とその働き2	講義
⑦ 第8章「内分泌」ホルモンの種類とその働き3	講義
⑧ 第9章「内分泌」ホルモンの種類とその働き4	講義
⑨ 第9章「生殖・成長と老化」生殖	講義
⑩ 第9章「生殖・成長と老化」妊娠と出産	講義
⑪ 第9章「生殖・成長と老化」成長・老化	講義
⑫ まとめ	
⑬ 復習	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

「生理学 第3版」(社)東洋療法学校協会編 内田さえ、原田玲子 他著 医歯薬出版(株)

IV. 評価

定期試験結果(ペーパー試験)と毎回の小テスト等の平常点。

V. 注意点 その他

復習を十分行い、知識を内容で理解して身に付けるように心がけて下さい。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	生理学Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人体におけるそれぞれの機能的役割を正確に理解し、統合的な人体の仕組みを説明できる。

2. 行動目標(SBOs)

- ①骨格筋の例について筋収縮の性質や仕組みを述べ、最後に心筋と平滑筋についても簡単に説明できる。
- ②身体運動の調節の仕組みを、骨格筋の神経支配と中枢神経系の各レベルによる運動調節の機構について順を追って説明できる。
- ③種々の感覚に共通する一般的性質について説明し、つぎに体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、内臓感覚、特殊感覚(味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚、視覚)の各感覚について、感覚の特徴、受容の仕組み、伝導路について説明できる。
- ④免疫系で働く白血球を中心としたさまざまな細胞や因子の働きと、生体の防御の仕組みについて述べることができる。
- ⑤生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス調節機構、生体に存在するさまざまな機能のリズムについて説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

①筋	骨格筋の筋収縮の性質や仕組み	講義
②筋	骨格筋の筋収縮の性質や仕組み	講義
③運動	身体運動の調節の仕組み	講義
④運動	身体運動の調節の仕組み	講義
⑤運動	身体運動の調節の仕組み	講義
⑥感覚	感覚の一般的性質および体性感覚、内臓感覚、特殊感覚	講義
⑦感覚	感覚の一般的性質および体性感覚、内臓感覚、特殊感覚	講義
⑧感覚	感覚の一般的性質および体性感覚、内臓感覚、特殊感覚	講義
⑨生体の防御機構	免疫系で働く白血球などの生体の防御の仕組み	講義
⑩身体活動の協調	生体の環境への順応、ホメオスタシス調節機構と生体リズム	講義
⑪身体活動の協調	生体の環境への順応、ホメオスタシス調節機構と生体リズム	講義
⑫まとめ		
⑬振り返り		講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

生理学 第3版 (社)東洋療法学校協会編 内田さえ、原田玲子 他著 医歯薬出版(株)

IV. 評価

定期試験(ペーパー試験)にて実施

V. 注意点 その他

教科書を中心に、予習・復習を十分にしてください。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	運動学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸師として必要な知識・技術を習得するための基礎として、筋の構造、局所解剖について理解し、また体表観察を行うための基礎を学習することを目的とする。筋の起始・停止・作用・支配神経、また筋の構成に関与する組織についてその働きを学習する。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 筋の生理作用、分類、名称を説明できる
- 2) 上肢の筋の起始・停止・作用・支配神経を説明できる
- 3) 体幹の筋の起始・停止・作用・支配神経を説明できる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

1. 筋学総論

- | | |
|----------------|----|
| 2. 上肢の筋1 上肢帯の筋 | 講義 |
| 3. 上肢の筋2 上腕の筋 | 講義 |
| 4. 上肢の筋3 前腕屈筋1 | 講義 |
| 5. 上肢の筋4 前腕屈筋2 | 講義 |
| 6. 上肢の筋5 前腕伸筋1 | 講義 |
| 7. 上肢の筋6 前腕伸筋2 | 講義 |
| 8. 体幹の筋1 胸筋 | 講義 |
| 9. 体幹の筋2 腹筋1 | 講義 |
| 10. 体幹の筋3 腹筋2 | 講義 |
| 11. まとめ | |
| 12. 振り返り(手の筋) | 講義 |

2. 授業形態

講義形式

III. 教育資源(テキスト、その他)

解剖学(医歯薬出版株式会社)、局所解剖学カラーアトラス(南江堂)、配布プリント、色鉛筆

IV. 評価

授業内態度、課題レポート作成、および学期末での筆記試験により評価

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	病理学概論Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医療従事者として必要な病態についての病理学的な知識(機能の異常、疾病の種類、原因、形態、成り立つ機序)を西洋医学の立場から学習し、鍼灸施術に役立てることができる。

2. 行動目標(SBOs)

- ① 疾病の概念を説明できる。
- ② 疾病のカテゴリー(種類)を説明できる。
- ③ 疾病の原因を説明できる。
- ④ 疾病を分類し各種病変の名称と定義を説明できる。
- ⑤ 各種病変の発生機序、経過と転帰について説明できる。
- ⑥ 各種病変にみられる解剖構造や細胞の形態的变化について理解できる。
- ⑦ 各種病変における機能・代謝の変化について理解できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|------------------------------|----|
| ① 第1章 病理学について | 講義 |
| ② 第2章 疾病の基本概念: 疾病の概念、分類 | 講義 |
| ③ 第3章 病因: 病因の一般、内因 | 講義 |
| ④ 第3章 病因: 外因(栄養の不足と過剰、物理的病因) | 講義 |
| ⑤ 第3章 病因: 外因(化学的病因、生物的病因) | 講義 |
| ⑥ 第4章 循環障害: 充血、うっ血、虚血、貧血 | 講義 |
| ⑦ 第4章 循環障害: 出血、血栓症 | 講義 |
| ⑧ 第4章 循環障害: 塞栓症、梗塞 | 講義 |
| ⑨ 第4章 循環障害: 水腫・浮腫・脱水症、ショック | 講義 |
| ⑩ 第5章 退行性病変: 萎縮、変性(概念、分類) | 講義 |
| ⑪ 第5章 退行性病変: 変性(加齢と老化、生活習慣病) | 講義 |
| ⑫ まとめⅠ | |
| ⑬ まとめⅡ | |
| ⑭ 振り返り授業(復習) | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

・教科書「病理学概論」滝澤登一郎、畠山茂著／社団法人東洋療法学校協会編：医歯薬出版

- ・プリント

IV. 評価

定期試験で評価する。

V. 注意点 その他

- ・色ペンを2種類ほど用意しておいて下さい。(板書や教科書に線を引くときに使用します。)
- ・章の終わりごとに小テストを行います。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	病理学概論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医療従事者として必要な病態についての病理学的な知識(機能の異常、疾病の種類、原因、形態、成り立つ機序)を西洋医学の立場から学習し、鍼灸施術に役立てることができる。

2. 行動目標(SBOs)

- ① 疾病の概念を説明できる。
- ② 疾病のカテゴリー(種類)を説明できる。
- ③ 疾病の原因を説明できる。
- ④ 疾病を分類し各種病変の名称と定義を説明できる。
- ⑤ 各種病変の発生機序、経過と転帰について説明できる。
- ⑥ 各種病変にみられる解剖構造や細胞の形態的变化について理解できる。
- ⑦ 各種病変における機能・代謝の変化について理解できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|------------------------------|----|
| ① 第8章 腫瘍:腫瘍の分類(良性腫瘍と悪性腫瘍の比較) | 講義 |
| ② 第8章 腫瘍:腫瘍の発生の諸段階、局所的・全身的影響 | 講義 |
| ③ 第8章 腫瘍:腫瘍の発生原因 | 講義 |
| ④ 第8章 腫瘍:良性腫瘍と悪性腫瘍、腫瘍の治療 | 講義 |
| ⑤ 第8章 腫瘍:腫瘍の疫学と各臓器の悪性腫瘍 | 講義 |
| ⑥ 第9章 免疫:免疫のしくみ(自然免疫と獲得免疫) | 講義 |
| ⑦ 第9章 免疫:アレルギー(分類と疾患) | 講義 |
| ⑧ 第9章 免疫:免疫不全 | 講義 |
| ⑨ 第9章 免疫:自己免疫疾患 | 講義 |
| ⑩ 第10章 先天性異常:奇形、催奇形因子 | 講義 |
| ⑪ 第10章 先天性異常:遺伝病、染色体異常 | 講義 |
| ⑫ まとめ | |
| ⑬ 振り返り授業(復習) | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ・教科書「病理学概論」滝澤登一郎、畠山茂著／社団法人東洋療法学校協会編：医歯薬出版
- ・プリント

IV. 評価

定期試験で評価する。

V. 注意点 その他

- ・色ペンを2種類ほど用意しておいて下さい。(板書や教科書に線を引くときに使用します。)
- ・章の終わりごとに小テストを行います。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	臨床医学各論Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

現代医学領域(内科・脳神経系を中心)の代表的な疾患についての知識を習得し、病態生理と診断学における基本的事項を理解し、診断の組み立てと治療方法について理解する

2. 行動目標(SBOs)

- ①一般的な疾患概念を理解し、述べることができる
- ②主要な疾患における特徴的な病態を理解し、説明できる
- ③主要な疾患の概念、原因、症状、検査、治療について理解し、説明できる
- ④自発的、かつ、継続的学習態度を実践する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①臨床医学各論について、消化器総論、口腔疾患1(顎関節症、齦歯、歯周病)
- ②口腔疾患2、(アフタ性口内炎、舌炎、口角炎)
- ③食道疾患1(食道がん、食道炎、食道潰瘍、その他)
- ④食道疾患2 胃疾患1(急性胃炎、慢性胃炎、消化性潰瘍 no1 胃潰瘍)
- ⑤胃疾患2(消化性潰瘍 no2、十二指腸潰瘍、胃癌)
- ⑥胃疾患3(その他の胃・十二指腸疾患)、腸疾患1(腸炎、クローン病、)
- ⑦腸疾患1、(過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎)
- ⑧腸疾患2(虫垂炎、大腸癌、腸閉塞)
- ⑨腸疾患3(その他の腸疾患、)肝・胆道疾患1総論
- ⑩肝・胆道疾患2(急性肝炎、慢性肝炎、薬物性肝障害)
- ⑪肝・胆道疾患3(肝硬変、肝癌、その他の肝疾患)
- ⑫まとめ
- ⑬振り返り授業

※ 授業形態は講義形式

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 東洋療法学校協会編 臨床医学各論

参考書: 新臨床内科学 医学書院

よくわかる内科学 金原出版

IV. 評価

筆記試験および平常点により行う

V. 注意点 その他

授業中のスマホ操作は慎むこと、教科書を予習し持参してください

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	臨床医学各論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

整形外科領域の代表的な疾患についての知識を習得し、運動器の病態生理学と診断学における基本的事項を理解し、診断の組み立てと治療方法について理解する

2. 行動目標(SBOs)

①知識(認知領域)

- ・一般的な整形外科疾患の概念を理解できる。
- ・主要な整形外科疾患の定義、症状、診査法、治療法を理解できる。

②技能(精神運動領域)

- ・臨床の場で整形外科疾患患者に対して適切に対処できるようになる。
- ・整形外科学的検査の説明・実施ができ、判定ができる

③態度(情意領域)

- ・整形外科疾患患者の生理的・心理的特徴を理解し、対処できる態度を養う。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①整形外科疾患の総論：一般症状、診査法、治療法	講義
②頸腕症候群(分類、病態、症状、検査)※脊椎疾患含む	講義
③関節疾患：関節可動域異常、関節炎、五十肩	講義
④関節疾患：変形性関節症	講義
⑤骨代謝疾患：骨粗鬆症、骨軟化症(くる病を含む)	講義
⑥骨腫瘍：骨腫瘍の診査法、種類	講義
⑦筋、腱疾患：筋炎、筋膜炎、腱鞘炎	講義
⑧形態異常：三大先天性整形外科疾患、特発性側湾症	講義
⑨脊椎疾患：頸腕症候群および腰痛症	講義
⑩脊髄損傷：原因、症状、治療法(リハビリテーション)	講義
⑪外傷性疾患：骨折、捻挫、脱臼、打撲	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り・復習	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

用意するもの：臨床医学各論 医歯薬出版KK

ほとんどが板書となりますのでノートを準備して下さい。

IV. 評価

定期試験(記述問題が主体)

V. 注意点 その他

その日の復習は必ずして下さい。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	臨床医学各論Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

一般内科の呼吸器を中心に内分泌・代謝疾患も含め主な疾患について概念を理解し、その疾患の症状、西洋医学的な検査法や治療法についても学び、鍼灸師として求められる病態の把握ができるようになる

2. 行動目標(SBOs)

①知 識

- ・主な疾患の疾患概念と症状を述べることができる
- ・類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる

②技 能

- ・主な症状の発生機序とその病態生理学的意義を説明できる
- ・主な検査法の実施方法、適応と判定、および、代表的な異常所見を説明できる

③態 度

- ・自発的、かつ、継続的学習態度を実践する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①呼吸器総論(構造と機能)上気道疾患(普通感冒)	講義
②上気道疾患(普通感冒・急性気管支炎)	講義
③下気道疾患(肺炎・肺結核)	講義
④COPD (呼吸機能・肺気腫)	講義
⑤COPD2(慢性気管支炎・気管支喘息)	講義
⑥拘束性呼吸器疾患(特発性肺線維症)	講義
⑦その他(肺がん・気胸・気管支拡張症)	講義
⑧内分泌疾患、下垂体疾患・甲状腺疾患(バセドウ病・粘液水腫)	講義
⑨副腎疾患1、(クッシング症候群・アルデステロン症・尿崩症)	講義
⑩副腎疾患2(褐色細胞腫・アジソン病・)	講義
⑪代謝・栄養疾患(糖尿病)脂質代謝異常(高脂血症・肥満症・るいそう)	講義
⑫まとめ	
⑬尿酸代謝異常(高尿酸血症・痛風)	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:東洋療法学校協会編 臨床医学各論

参考書:よくわかる内科学 金原出版

IV. 評価

定期試験により行う。

V. 注意点 その他

事前に教科書などで予習してくること

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	応用診断学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(56時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

各科の疾患について概念を理解し、その疾患の症状、西洋医学的な検査法や治療法についても学び、鍼灸師として求められる病態の把握ができるようになる。また、多くの疾患を学ぶことで個々の疾患ばかりでなく、他疾患との鑑別の要点が把握出来るようになる。

2. 行動目標(SBOs)

- ①主な疾患の疾患概念と症状を述べることができる。
- ②類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる。
- ③主な症状の発生機序とその病態生理学的意義を説明できる。
- ④主な検査法の実施方法、適応と判定、および、代表的な異常所見を説明できる。
- ⑤自発的、かつ、継続的学習態度を実践する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①代謝疾患・栄養疾患	講義
②膠原病1	講義
③膠原病2	講義
④膠原病3／血液疾患1	講義
⑤血液疾患2	講義
⑥血液疾患3	講義
⑦消化器/肝胆膵疾患まとめ1	講義
⑧消化器/肝胆膵疾患まとめ2	講義
⑨消化器/肝胆膵疾患まとめ3	講義
⑩消化器/肝胆膵疾患まとめ4	講義
⑪消化器/肝胆膵疾患まとめ5	講義
⑫消化器/肝胆膵疾患まとめ6	講義
⑬消化器/肝胆膵疾患まとめ7	講義
⑭腎疾患1	講義
⑮腎疾患2	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 東洋療法学校協会編 臨床医学各論

プリント(過去問・まとめ)

参考書:よくわかる内科学(金原出版)、新臨床内科学(医学書院)、標準整形外科学(医学書院)

IV. 評価

試験(マークシート)

V. 注意点 その他

事前に教科書などで予習してくる。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	リハビリテーション概論 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

リハビリテーション医学全般・運動学を理解する。国家試験を念頭に置き、出題傾向を把握する。

2. 行動目標(SBOs)

障害に対する理解、各疾患のリハビリテーションを治療現場に活かす。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①リハビリテーションと障害(リハビリテーションとは)	講義
②リハビリテーション医学と医療(リハビリテーション医学の概念)	講義
③障害の評価①(身体構造・活動・合併症の評価)	講義
④障害の評価②(運動麻痺の評価・運動発達テスト)	講義
⑤障害の評価③(高次脳機能評価・心理的評価)	講義
⑥医学的リハビリテーション①(理学療法・作業療法)	講義
⑦医学的リハビリテーション②(言語療法・装具療法)	講義
⑧脳卒中のリハビリテーション①(脳卒中とは・急性期リハビリテーション)	講義
⑨脳卒中のリハビリテーション②(回復期リハビリテーション・リスク管理)	講義
⑩脊髄損傷のリハビリテーション①(脊髄損傷による症状と障害)	講義
⑪脊髄損傷のリハビリテーション②(急性期・回復期リハビリテーション)	講義
⑫まとめ I	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:リハビリテーション医学 医歯薬出版

プリント:担当者が原稿を用意し配布する

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 アドバイス

毎回、ノートをしっかりとること

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	リハビリテーション概論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(38時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸師に必要なリハビリテーションの知識・技術を修得し、臨床の場で生かせる事ができるようにする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①主な適応となる疾患を理解する。
- ②各疾患のリハビリテーションの内容を学習する。
- ③国家試験のレベルまで到達する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

1. 日程:時間割通り

- #### 2. 内容
- ①脊髄損傷のリハビリテーション
 - ②切断のリハビリテーション
 - ③小児のリハビリテーション
 - ④骨関節疾患のリハビリテーション
 - ⑤呼吸器のリハビリテーション
 - ⑥心疾患のリハビリテーション
 - ⑦パーキンソン病のリハビリテーション
 - ⑧高齢者のリハビリテーション
 - ⑨運動学の基礎1
 - ⑩運動学の基礎2

3. 講義と簡単な実技の併用

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:「リハビリテーション医学第3版」医歯薬出版

「リハビリテーション医学テキスト」南江堂

「リハビリテーションビジュアルブック」学研

プリント(補足分の内容)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	医療概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医療人としての心構えを確認すると共に、東洋医学の理論を学び東洋医学独特な物の見方や考え方に触れる。また、身近にある物・季節・様々な現象などを例に挙げ東洋医学の思想と絡めて基礎的な東洋療法の知識を修得する。

2. 行動目標(SBOs)

- 1)医療人としての心構え
- 2)東洋医学の思想に触れる。
- 3)陰陽学説について身近に起こり事柄と絡めて理解する。
- 4)五行の発想を学びその特性を理解する。
- 5)相克関係の考え方に触れ人と自然の関係について考える。
- 6)医学から見た人体の考え方に触れる。

II. 学習方略

1. 授業内容

①建学の精神・医療人の心構え	講義
②医療人の心構え	講義
③ヒポクラテスの誓い	講義
④患者の権利宣言	講義
⑤東洋医学の思想と特徴	講義
⑥陰陽の考え方	講義
⑦陰陽論の特徴	講義
⑧四診とは	講義
⑨五行学説とは	講義
⑩自然と人体の五行分類	講義
⑪人体と生理・病理の五行分類	講義
⑫振り返り	講義

2. 授業形態 場所

基本的には教室で講義形式とする。必要に応じ、グループ学習や実技室なども使用する。

III. 教育資源(テキスト、その他)

医療概論(医歯薬出版株式会社)・東洋医学概論(医道の日本社)・配布プリント など

IV. 評価

授業内態度、課題レポートなどの提出物、および学期末での筆記試験により評価。

V. 注意点 その他

- ①医療概論の講義は、東洋医学概論の導入の役割を担っている。したがって、医療概論の教科書の順を追って解説していく授業とはならない。単なる国家試験対策ではなく、複眼（東洋・西洋）的思考に慣れ、かつそれに耐えうる知性を養うことに主眼を置く。
- ②西洋医学とは違った、東洋医学独特な思想を元に患者の病態を把握し、それに対して治療を行う東洋医学の基本的な知識を学ぶ授業である。最初はなかなか理解出来ない点もあるかと思うが楽しく勉強をしていく心構えが大切であるとする。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	関係法規
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(16時間)

I. 学習目標

1 一般目標(GIO)

鍼灸師として業務に従事する上で「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」とその業務や医療従事者一般として必要な医療福祉法を中心に学習する。講義は過去の国家試験を中心にまとめた資料を使用する

2 行動目標(SBOs)

1. 法の意義と体系、免許と試験、免許の資格要件、申請、書き換え交付、業務などを理解する
2. 身分の消滅、施術所に関する規則、届け出、備えるべき要件などを理解する
3. 広告制限、罰則
4. 医療法、医療法をを理解する
5. 衛生関係法規を理解する社会福祉関係法規を理解する
6. 社会福祉関係法規を理解する
7. 日本の医療制度、介護保険制度について理解する
8. 医療倫理、医療概論について理解する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 法の体系・はりきゅう師の免許と試験	講義／教室
② 業務に関する法律	講義／教室
③ 広告、罰則に関する法律	講義／教室
④ 衛生関係法規	講義／教室
⑤ 社会福祉関係法規	講義／教室
⑥ 介護保険制度に関する法律	講義／教室
⑦ その他、総合演習	講義／教室

III. 教育資源(テキスト、その他)

関係法規第7版 (社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 医歯薬出版株式会社
授業時に配布する資料

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

関係法規は、国家試験のみならず、免許取得後に実際の業務や開業などをしていく上で必ず認識が必要となります。また、業務違反に対する処罰なども理解が必要です。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	衛生学・公衆衛生学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

健康について理解し、人々の健康の保持・増進させるための諸要素と疾病予防の重要性を認識させる。

2. 行動目標(SBOs)

- ①健康についての考え方、健康管理全般を説明できる。
- ②食中毒を中心にした食品及び栄養について説明できる。
- ③生活環境衛生について説明できる。
- ④公害について説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①第1章 衛生学・公衆衛生学の意義		講義
②第2章 健康1	健康の概要・健康管理・健康増進	講義
③第2章 健康2	衛生行政、医療制度と医療保障	講義
④第3章 ライフスタイルと健康1	食品と栄養	講義
⑤第3章 ライフスタイルと健康2	食品と疾病	講義
⑥第3章 ライフスタイルと健康3	食中毒	講義
⑦第4章 環境と健康1	環境・物理的環境要因	講義
⑧第4章 環境と健康2	化学的・生物学的環境要因	講義
⑨第4章 環境と健康3	公害の定義と特徴	講義
⑩第4章 環境と健康4	地球規模の環境問題	講義
⑪まとめ		
⑫振り返り		講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:「衛生学・公衆衛生学」松本幸久、など著 (医歯薬出版)

参考書:「国民衛生の動向」厚生統計協会編

IV. 評価

定期試験により評価する

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	東洋医学概論Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

すでに学習した東洋医学の根本思想が重要であるため、陰陽学説、五行学説等の復習した上で、東洋医学的哲学思想に基づく生体観の見方や考え方の知識を修得する。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 東洋医学の特徴について理解する。
- 2) 神・精・気血津液の生理について理解する。
- 3) 東洋医学の思想について理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

①健康なからだについて	講義
②東洋医学の起源と発展	講義
③陰陽学説1	講義
④陰陽学説2	講義
⑤五行学説	講義
⑥東洋医学の特徴	講義
⑦神・精・気血津液の生理1	講義
⑧気血津液の生理2	講義
⑨気血津液の生理3	講義
⑩気血津液の生理4	講義
⑪生理物質の相互関係	講義
⑫まとめ	
⑬気血津液の生成代謝(まとめ)	講義

2. 授業形態 場所

基本的には教室で講義形式とする。

III. 教育資源(テキスト、その他)

東洋療法学校協会編「新版東洋医学概論」医道の日本社 など

IV. 評価

定期テスト

V. 注意点 その他

復習はその日のうちに行っておくこと。

欠席した場合は、自分でしっかりフォローしておくこと。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	経絡経穴概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に鍼灸師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

経絡経穴概論は学校在籍中全ての学年・学期に登場する科目である。その中で1年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類・それに属する経穴名、経穴を取穴する為に必要な解剖学的知識などを学習する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①経絡について理解する
- ②経穴を取穴することが出来る
- ③骨度法について理解する
- ④同身寸法について理解する
- ⑤取穴法に登場する解剖学的名称を触り説明できる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

テーマ	形態	場所
①経絡経穴概論について	講義 演習	実技室
②督脈1	講義 演習	実技室
③督脈2	講義 演習	実技室
④督脈3	講義 演習	実技室
⑤任脈1	講義 演習	実技室
⑥任脈2	講義 演習	実技室
⑦手の太陰肺経	講義 演習	実技室
⑧手の陽明大腸経1	講義 演習	実技室
⑨手の陽明大腸経2	講義 演習	実技室
⑩足の陽明胃経1	講義 演習	実技室
⑪足の陽明胃経2	講義 演習	実技室
⑫まとめ		
⑬振り返り	講義 演習	実技室

III. 教育資源(テキスト、その他)

「経絡経穴概論」 医道の日本社 など

IV. 評価

定期考査中にペーパー試験及び口頭試問を実施

V. 注意点 その他

①実技教室にて授業を行う為、白衣の着用を義務とする

① 予定変更の際は授業中にお知らせします

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	はり理論・きゅう理論 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸の基礎知識として、器具、技術、衛生的処置、刺鍼法、灸法を理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①鍼灸の用具や術式について基本的な説明ができる
- ②鍼灸臨床における臨床適応とリスクに対する知識を身につける

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形式

- | | |
|----------------|----|
| ① 第1章 概論 | 講義 |
| ② 第2章 鍼の基礎知識 | 講義 |
| ③ 第3章 鍼の方式と術式1 | 講義 |
| ④ 鍼の方式と術式2 | 講義 |
| ⑤ 第4章 特殊鍼法 | 講義 |
| ⑥ 第5章 灸の基礎知識 | 講義 |
| ⑦ 第6章 灸術の種類 | 講義 |
| ⑧ 第7章 鍼灸臨床応用 | 講義 |
| ⑨ 第8章 リスク管理1 | 講義 |
| ⑩ リスク管理2 | 講義 |
| ⑪ まとめ | |
| ⑫ 復習 | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

プリント、液晶プロジェクター

はりきゅう理論 (公社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 (株)医道の日本社
 生理学第2版 (公社)東洋療法学校協会編 内田さえ・原田玲子他著 医歯薬出版(株)

IV. 評価

定期試験(ペーパー試験)にて実施

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	はり理論・きゅう理論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

東洋医学の基盤となる蔵象学と経絡学における生理と病理の知識を養い、弁証論治の精神から多種の疾病に対応できる鍼灸師を育成する

2. 行動目標(SBOs)

テキスト内容を全て網羅するのは不可能であるため、この学問の重要性を理解してもらうことに重きをおいた授業を目標とする。

【概論】

- ①蔵象学説
- ②経絡の種類
- ③臓腑と経絡の関係

【各論】

- ①各蔵象の位置、形態、機能
- ②各経脈の分布、関連する経穴の理解
- ③各臓腑経絡に関連する実際の臨床的な見解

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|----------------|----|
| ①臓腑経絡概論 | 講義 |
| ②手太陰肺経 | 講義 |
| ③手陽明大腸経 | 講義 |
| ④足陽明胃経 | 講義 |
| ⑤足太陰脾経 | 講義 |
| ⑥手少陰心経 | 講義 |
| ⑦手太陽小腸経 | 講義 |
| ⑧足少陰腎経、足太陽膀胱経 | 講義 |
| ⑨手厥陰心包経、手少陽三焦経 | 講義 |
| ⑩足少陽胆経 | 講義 |
| ⑪足厥陰肝経 | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り、その他 | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

①臓腑経絡学

②配布資料(毎回配布予定)

IV. 評価

①授業内態度

②学期末での筆記試験により評価

V. 注意点 その他

①PC プロジェクター使用のための準備

② 配布資料に準備

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	経絡経穴演習
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(18時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

経絡の意義や概要、および経穴の取穴、要穴、局所解剖、主治等を総合的に学習する。

2. 行動目標(SBOs)

知識(認知領域)

- ①経絡および経穴の意義と概要が言える。
- ②正穴の取穴が言える。
- ③要穴が言える。
- ④経穴の筋肉・運動神経・知覚神経・血管が言える。
- ⑤経絡経穴の現代医学的意義が言える。

技能(精神運動領域)

- ①経絡別に正穴の取穴ができる。
- ②経絡別に正穴の局所解剖や要穴が理解できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|----------------------|----|
| ① 頭顔面部の経穴(筋・知覚神経・血管) | 講義 |
| ② 体幹の経穴(筋・知覚神経・血管) | 講義 |
| ③ 奇経八脈 | 講義 |
| ④ 局所解剖と経穴① | 講義 |
| ⑤ 局所解剖と経穴② | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

用意するもの

教科書: 新版 経絡経穴概論・解剖学

授業時配布プリント(筋学・経穴・体表解剖学)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

事前に教科書などで予習してくること。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	応用鍼灸学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(20時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸の基礎知識として、治効理論および臨床応用を理解、説明できる。

2. 行動目標(SBOs)

- ① 鍼灸臨床における臨床適応とリスクに対する知識を身につける。
- ② 鍼灸治療における治効メカニズムを説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形式

- | | |
|--------------------|----|
| ① 第10章 鍼灸療法の一般治効理論 | 講義 |
| ② 第10章 鍼灸療法の一般治効理論 | 講義 |
| ③ 第11章 関連学説 | 講義 |
| ④ 第11章 関連学説 | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

プリント、液晶プロジェクター

はりきゅう理論 (公社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 (株)医道の日本社
生理学第2版 (公社)東洋療法学校協会編 内田さえ・原田玲子他著 医歯薬出版(株)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	診察概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ①臨床系の基本教科として、医療者としての心構え、実践意識を育てる

2. 行動目標(SBOs)

- ①適切な医療面接を行うことができる
- ②病態把握に必要な観察ができる
- ③病態把握に必要な身体診察を選択し実施できる
- ④全人的な患者ケア(POS)を実践できるカルテを作成することができる
- ⑤症例に基づいて問題解決を行うことができる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

<授業内容>	<形態>
①診察学概要(診察の進め方)	講義
②具体的な診察法一例(反射の採り方)	講義
③診察結果の整理の仕方(カルテの書き方)	講義
④全身の診察法(神経学的所見)	講義
⑤全身の診察法(診察方法1)	講義
⑥全身の診察法(診察方法2)	講義
⑦局所の診察法(生命徴候1)	講義
⑧局所の診察法(生命徴候2)	講義
⑨局所の診察法(全身の診察1)	講義
⑩局所の診察(全身の診察2)	講義
⑪復習	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

臨床医学総論(教科書) ハンマー(打腱器)、血圧計、プリント

IV. 評価

筆記試験

V. 注意点 その他

グループワーク等も実施する予定なので、グループ内での活発な意見交換は奨励しますが、余計な私語はしないように注意してください。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	東洋医学概論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

1年生で学習した東洋医学概論の概要を復習しながら、最終的には自ら弁証論治の組み立てができるように理解を深める。

2行動目標(SBOs)

- ① 陰陽五行論を理解し説明できる。
- ② 気・血・津液の生理機能を理解し説明できる。
- ③ 五臓六腑の生理機能を理解し説明できる。
- ④ 経絡概念と五臓六腑の関係を理解し説明できる。
- ⑤ 四診を用いて弁証論治ができる。

II. 学習方略

1. 授業日程・授業内容・授業形態

- | | |
|----------------------|----|
| ① 1年次の復習(陰陽五行) | 講義 |
| ② 1年次の復習(精気血津液、五臓六腑) | 講義 |
| ③ 病因病機 | 講義 |
| ④ 五臓六腑の病証 | 講義 |
| ⑤ 四診 望診 | 講義 |
| ⑥ 四診 望診 | 講義 |
| ⑦ 四診 望診 | 講義 |
| ⑧ 四診 聞診 | 講義 |
| ⑨ 四診 問診 | 講義 |
| ⑩ 四診 問診 | 講義 |
| ⑪ 試験前対策 | 講義 |
| ⑫ まとめ | |
| ⑬ ふり返し | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ・東洋医学概論(社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 医道の日本社
- ・授業で配布する資料

IV. 評価

- ・定期試験

V. 注意点 その他

- ・欠席した分の資料は次の授業までに確保すること

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	体表解剖学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

解剖学は、人体の構造・形態を観察し、構造および形態と機能との関連を的確に理解することを目的とする。
体表解剖学では、今まで学習してきた解剖学を総合して理解を深めるとともに、鍼灸臨床に応用できる知識を習得する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①各器官の位置と形態を図示することが出来る。
- ②各器官の構造について説明できる。
- ③各器官の走行・分布領域を説明できる。
- ④体表で指標となる部位を説明できる。
- ⑤各器官の形態と機能の関連を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①第1章	人体の構成(細胞・組織1)	講義
②第1章	人体の構成(組織2)	講義
③第1章	人体の構成(組織3・体表構造)	講義
④第4章	消化器系(総論・腹膜・口腔)	講義
⑤第4章	消化器系(扁桃～咽頭)	講義
⑥第4章	消化器系(食道～小腸)	講義
⑦第4章	消化器系(大腸・門脈)	講義
⑧第4章	消化器系(肝臓・膵臓)	講義
⑨第5章	泌尿器系(腎臓)	講義
⑩第5章	泌尿器系(尿路)	講義
⑪第3章	呼吸器系(総論・鼻腔～喉頭)	講義
⑫第3章	呼吸器系(気管・肺)	講義
⑬第10章	運動器系:骨格系(骨の概要・関節)	講義
⑭第10章	運動器系:骨格系(頭蓋骨・各部の骨)	講義
⑮第7章	内分泌系	講義
⑯第2章	循環器系(総論・心臓)	講義
⑰第2章	循環器系(心臓・動脈)	講義
⑱第2章	循環器系(静脈・胎児循環)	講義

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:東洋療法学校協会編 解剖学

プリント(まとめ・国家試験過去問題)

Ⅳ. 評価

試験

Ⅴ. 注意点 その他

事前に教科書などで予習してくること。

プリントを配布するのでファイルを用意すること。

4 色の色鉛筆もしくは色ペン(青・赤・黄・緑)があると便利である。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	病態生理学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(22時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

熱が出る、頭が痛い、食欲がない。こういった症状がなぜ起こってくるか、そのからくりや意味づけを、解剖学や生理学の知識をもとにして理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①患者の訴えを、解剖学や生理学の知識を元にして理解できる。
- ②正しい解剖学や生理学の知識を持って、患者に症状を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①整形外科1(先天性疾患) 講義
- ②整形外科2(形態異常) 講義
- ③整形外科3(脊髄損傷) 講義
- ④整形外科4(スポーツ外傷) 講義
- ⑤痛みの仕組み 講義
- ⑥腹痛・頭痛・腰痛 講義
- ⑦疲れと顔色 講義
- ⑧発熱と発汗 講義
- ⑨咳と息切れ 講義
- ⑩心筋梗塞 講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

プリント

参考図書:臨床医学各論の教科書

IV. 評価

筆記試験(定期試験)

V. 注意点 その他

授業内容は板書が中心となる。しっかりとノートをとること。

※前半4回程度は、臨各Ⅱの範囲であった疾患について取り上げます。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	中医各論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(40時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸師として、日常によく遭遇する疾患に対して治療を行う際、必要な東洋医学の考え方や知識を習得することにより、種々の病証の発生メカニズム並びにその治療についての基本知識と技能の理解と簡単な応用ができる

2. 行動目標(SBOs)

- ①東洋医学臨床論の各疾患について、現代医学的・東洋医学的な疾病のメカニズムを説明できる。
- ②各疾患について西洋医学的・東洋医学的見地から治療法・治療穴を導き出すことができる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

①中医学の治療原則と治療方法の概要	講義
②各疾患の基本病理、弁証(六十九難・頭痛)	講義
③各疾患の基本病理、弁証(顔面痛・歯痛)	講義
④各疾患の基本病理、弁証(顔面神経麻痺・眼精疲労・鼻閉鼻汁)	講義
⑤各疾患の基本病理、弁証(脱毛症・眩暈)	講義
⑥各疾患の基本病理、弁証(耳鳴り・難聴・咳嗽)	講義
⑦各疾患の基本病理、弁証(喘息・胸痛)	講義
⑧各疾患の基本病理、弁証(腹痛・悪心嘔吐)	講義
⑨各疾患の基本病理、弁証(便秘と下痢・月経異常)	講義
⑩各疾患の基本病理、弁証(排尿障害・インポテンツ)	講義
⑪各疾患の基本病理、弁証(肩こり・頸肩腕痛)	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書

授業用プリント、東洋医学臨床論(医道の日本社)、東洋医学概論(医道の日本社)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

東洋医学概論の知識と経穴の知識が不可欠になるので、普段から慣れ親しんでおくように。

授業では教科書の記載順に講義を行うので、できるかぎり予習しておくこと。

授業内で前回の授業の確認テストを行うので、必ず復習するように。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	東洋医学臨床論Ⅰ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

最も基礎的、必要な東洋医学の考え方や知識を習得することにより、種々病因、病証の発生機序並びにその治療方針についての基本知識と技能を理解し、その簡単な応用ができる。

2. 行動目標(SBOs)

- ① 証の意義と分類についての理解と説明ができる。
- ② 八綱弁証(表裏弁証、寒熱弁証、虚実弁証)とその相互関係の理解、説明および応用ができる。
- ③ 気血津液弁証とその相互関係の理解、説明および応用ができる。
- ④ 病因弁証への理解、説明および応用でできる。
- ⑤ 臓腑弁証とその他の弁証の関連性についての理解、説明および応用ができる。
- ⑥ 各種の弁証の関連性を考えながら、各種の弁証による病態分析を理解する。
- ⑦ 以上の弁証の講義しながら、現代医学から見た近い病態を挙げ、病証の実体がより容易に理解し、疾患に対して、全方位的に把握、対処できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

①証の意義と分類および弁証論治の流れ	講義
②八綱の概要の復習と八綱弁証の内容と臨床意義	講義
③気血の概念、生理と病理の復習およびその弁証(1)	講義
④気血の弁証とその応用(2)	講義・演習
⑤津液の概念、生理と病理の復習およびその弁証	講義
⑥津液の弁証とその応用	講義・演習
⑦八綱、気血津液弁証の関連性とその応用(症例弁証)	講義・演習
⑧臓腑弁証1-1 (肝、胆弁証)	講義
⑨臓腑弁証1-2 (肝、胆弁証とその応用)	講義・演習
⑩臓腑弁証2-1 (心、小腸弁証)	講義
⑪臓腑弁証2-2 (心、小腸弁証とその応用)	講義・演習
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書

授業用プリント、東洋医学概論(医道の日本社)、東洋医学臨床論(医道の日本社)

参考図書

鍼灸学「基礎編」(日中共同編集、東洋学術出版社)

鍼灸学「臨床編」(日中共同編集、東洋学術出版社)

中医学ノートなど

IV. 評価

定期試験:講義内容(症例の弁証、4択問題などの形式)

症例弁証結果の提出、授業前の小テスト(不定期)

V 注意点 その他

授業内容は関連性があるので、授業中やその後、理解できない所に関して、積極的に質問すること。理解と記憶を深めるため、家で復習することも重要。次の授業の前に、前回の授業の内容の確認の質疑と不定期の小テストをする。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸師として、日常によく遭遇する疾患に対して治療を行う際、必要な東洋医学の考え方や知識を習得することにより、種々の病証の発生メカニズム並びにその治療についての基本知識と技能の理解と適切な応用ができる

2. 行動目標(SBOs)

- ①各症状、症例の弁証論治のトレーニングを参考にしながら、中医弁証に対して、より深く理解し、自分なりの診察パターンに作れるようになる
- ②自分で患者情報を分析でき、証の鑑別を行いながら、病証の決定が出来ると共にその根拠について説明することが出来る
- ③自分で治療方針を立て、それに基づいた主要な治療穴を取ることが出来る

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①月経異常などの生殖器系に関する疾患の弁証論治
- ②インポテンツなどの生殖器系に関する疾患の弁証論治
- ③症例分析と練習問題
- ④排尿障害などの泌尿器系に関する疾患の弁証論治
- ⑤まとめⅠ
- ⑥小児夜尿症などの泌尿器系に関する疾患の弁証論治
- ⑦症例分析と練習問題
- ⑧腰痛などの運動器系に関する疾患の弁証論治
- ⑨五十肩に関する疾患の弁証論治
- ⑩症例分析と練習問題
- ⑪リウマチ(痺証)
- ⑫まとめⅡ
- ⑬振り返り

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 東洋医学概論(医道の日本社)、東洋医学臨床論(医道の日本社)

授業用プリント

参考図書: 鍼灸学「基礎編」(日中共同編集、東洋学術出版社)

鍼灸学「臨床編」(日中共同編集、東洋学術出版社)

中医学ノートなど

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

授業内容は関連性があるので、授業中やその後、理解できない所に関して、積極的に質問すること。理解と記憶を深めるため、家で復習することも重要。次の授業の前に、前回の授業の内容の確認の質疑と不定期の小テストをする

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	社会はき学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(16時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

現代社会におけるはり師・きゅう師の役割を学び、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を養う。

2. 行動目標(SBOs)

- ・鍼灸師に求められる社会的ニーズを理解する。
- ・医療面接技法を述べることができる。
- ・医療面接技法を用い、円滑にコミュニケーションがとれるようになる。
- ・医療面接を通して、患者の求めることを理解できるようになる。
- ・現代鍼灸の問題を解決する方法を理解する。(研究)
- ・論文が作成できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

- ①医療面接の基本1
- ②医療面接の基本2
- ③医療面接の応用1
- ④医療面接の応用2
- ⑤医療面接セッション
- ⑥論文作成について1(論文総論)
- ⑦論文作成について2(研究デザイン)
- ⑧論文作成について3(研究デザイン)
- ⑨論文作成について4(研究倫理)
- ⑩論文作成について5(統計処理)
- ⑪論文作成について6(統計処理)
- ⑫論文作成について7(文献検索方法)

III. 教育資源(テキスト、その他)

配布資料

IV. 評価

レポート課題

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	適応症特論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

一般臨床で多い症候について、問診・視診・触診・検査などの所見から疾患を推察し、鍼灸適否の鑑別を行えるようになる。

2. 行動目標(SBOs)

- ①症候から推察される疾患を述べることができる
- ②疾患の特徴を述べることができる
- ③鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|----------|----|
| ①総論、内科系1 | 講義 |
| ②内科系2 | 講義 |
| ③内科系3 | 講義 |
| ④内科系4 | 講義 |
| ⑤内科系5 | 講義 |
| ⑥内科系6 | 講義 |
| ⑦整形外科系1 | 講義 |
| ⑧整形外科系2 | 講義 |
| ⑨整形外科系3 | 講義 |
| ⑩整形外科系4 | 講義 |
| ⑪整形外科系5 | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書(臨床医学各論、臨床医学総論)、スライド等

IV. 評価

平常点と定期試験の総合評価

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	基礎はり・きゅう実技
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	5単位(150時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に鍼灸師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた鍼および灸の取扱いについての知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸師に必要な毫鍼による基本実技を知り、正確かつ安全に身体へ施術することができる。

鍼を受療し、身体の変化を体感する

灸の基本実技を知り、正確ですばやく、かつ安全に人体に施灸することができる。

様々な艾の種類や灸法を学び、理解することができる。

2. 行動目標(SBOs)

①知識(認知領域)

- ・毫鍼各部の名称を説明できる
- ・刺鍼の手順やその意味を説明できる
- ・消毒、感染、医療過誤の意味が説明できる
- ・身体各部の解剖構造を説明できる
- ・血圧測定の意義が説明できる
- ・艾の種類を説明できる
- ・様々な種類の灸法を説明できる

②技能(精神運動領域)

- ・刺鍼施灸に必要な消毒ができる
- ・医療廃棄物の分類ができる
- ・基本的な刺鍼施灸の手順ができる
- ・身体各部の解剖学的構造を体表から触れ、経穴に正確に刺鍼施灸することができる
- ・毫鍼を決められた方向、深度に刺入できる
- ・艾を半米粒大・米粒大にひねることができる
- ・血圧測定ができる

③態度(情意領域)

- ・施術者であるという意識を持つ
- ・患者側(施術を受ける側)に適切な配慮ができる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

・オリエンテーション

・両手挿管、ひも作り	講義・実技
・もぐさ作り、お灸体験	講義・実技
・両手挿管、艾炷作成	講義・実技
・押手、片手挿管	講義・実技
・片手挿管、艾炷作成	講義・実技
・鍼の製造過程	講義・実技
・片手挿管、艾炷への点火	講義・実技
・片手挿管、艾炷への点火	講義・実技
・片手挿管、艾炷への点火	講義・実技
・一連の刺鍼施灸流れ	講義・実技
・片手挿管、艾炷への点火	講義・実技
・一連の刺鍼施灸流れ	講義・実技
・片手挿管、艾炷への点火	講義・実技
・血圧測定	講義・実技
・血圧測定	講義・実技
・人体刺鍼施灸	講義・実技
・隔物灸	講義・実技
・人体刺鍼施灸	講義・実技
・人体刺鍼施灸	講義・実技
・試験説明	講義・実技
・人体刺鍼施灸	講義・実技
・人体刺鍼施灸	講義・実技
・棒灸	講義・実技
・刺入	講義・実技
・自身への施灸	講義・実技
・前腕への施灸	講義・実技
・下腿への施灸	講義・実技
・腰部への施灸	講義・実技
・背部への施灸	講義・実技
・膝への施灸	講義・実技
・項部への施灸	講義・実技
・腹部への施灸	講義・実技
・顔面への施灸	講義・実技
・試験練習	講義・実技
・試験練習	講義・実技
・灸熱緩和操作	講義・実技

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

教科書【はりきゅう実技(基礎編)・はりきゅう理論】、局所解剖カラーアトラス 南江堂
実技備品セット

Ⅳ. 評価

小テスト、身体への刺鍼施灸・血圧測定、筆記試験

Ⅴ. 注意点 その他

- ①授業中は必ず白衣を着用すること
- ②必要な実技備品は忘れないこと。忘れた場合は欠席扱いとする。
- ③実技当番は授業開始前に共用備品の準備を行う
- ④各自授業開始前に備品の用意をしておく
- ⑤手洗いは授業前に済ませておくこと
- ⑥爪は必ず短く切ってくること
- ⑧ 自宅練習をしっかりと行うこと

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	経絡経穴取穴実技
授業形態	実技
単位数(授業時数)	2単位(72時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

1年生の経絡経穴概論で学習した知識をふまえ、経穴の要穴を学習し、正確な位置を取穴できるようにする。

2. 行動目標(SBOs)

①知識(認知領域)

- ・経穴名と読み方・取穴位置が言える
- ・経穴の要穴が言える
- ・経絡の位置関係が言える

②技能(精神運動領域)

- ・十四経に属する経穴を取穴できる
- ・十四経に属する経穴の要穴が理解できる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①2年次学習のオリエンテーション・要穴について

講義

②手の太陰肺経

講義・取穴実技・鍼灸実技

③手の少陰心経

講義・取穴実技・鍼灸実技

④手の厥陰心包経

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑤診断テスト

テスト

⑥手の陽明大腸経

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑦手の太陽小腸経

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑧手の少陽三焦経

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑨任脈・督脈(頭頸部)

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑩頸部・顔面部

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑪頭部

講義・取穴実技・鍼灸実技

⑫まとめ

⑬復習

講義・取穴実技・鍼灸実技

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書(新版 経絡経穴概論)

鍼灸実技道具(施灸板を含む)

IV. 評価

定期テスト、口頭試問、平常点の総合評価

V. 注意点 その他

- ① 授業中は必ず白衣を着用すること
- ② 取穴に際しては、いつでもモデル役、実技ができるよう服装に気をつけること
- ③ 授業開始までに消毒備品を2名に1つ準備し、施灸板での施灸練習を開始すること
- ④ 毎時間、課題(宿題)があるため、必ず翌週に提出すること(翌週でなければ提出したことにならないので十分に注意すること)

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	鍼灸診断治療学
授業形態	実技
単位数(授業時数)	5単位(150時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

鍼灸臨床において遭遇する代表的な2症候(肩関節痛・頸肩腕痛)について、実際の臨床に即した診察・検査を通して、診断の組み立てや治療方法についての知識、技能、態度を身につける。またカルテについて理解し、問診、理学検査からカルテを作成することができる。

2. 行動目標(SBOs)

①知識

- ・カルテについて理解し、内容を説明できる
- ・反射の種類とそれぞれの意義を説明できる
- ・肩関節痛の病態と鑑別法を理解し、その意義を説明できる
- ・頸肩腕痛の病態と鑑別法を理解し、その意義を説明できる

②技能

- ・患者が話す内容を聞き取り、適切にカルテに記入することができる
- ・反射を取ることができる
- ・膝関節痛における基本的な検査をし、鑑別診断ができる
- ・頸肩腕痛における基本的な検査をし、鑑別診断ができる

③態度

- ・診察・治療を担当する医療者として必要な態度、マナーを身につける

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①オリエンテーション	講義
②反射のみかた1	講義
③反射のみかた2	講義
④反射のみかた3	実技
⑤肩関節痛診察法	講義
⑥肩関節痛検査法、基礎実技	実技
⑦肩関節痛問診シミュレーション・口頭試問	演習
⑧頸肩腕痛診察法	講義
⑨頸肩腕痛検査法、基礎実技	実技
⑩頸肩腕痛問診シミュレーション・口頭試問	演習
⑪まとめ	
⑫実技確認	実技

⑬ふりかえり

実技

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

用意するもの: 白衣・シーツ・実技道具・施灸板

Ⅳ. 評価

定期試験(実技・筆記)・作成カルテ・授業時口頭試問・問診レポート

Ⅴ. 注意点 その他

- ①当番は授業開始までに備品を用意し、すぐに授業が行えるようにしておく
- ②授業時、白衣を着用しないもの、提出物を提出しないものは欠席扱いとなる

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	応用鍼灸実技
授業形態	実技
単位数(授業時数)	2単位(66時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

臨床鍼灸師として必要な診断能力を磨く。小児鍼及び軽刺激での鍼治療技術を復習する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①面接と身体診察から病態を推論でき、鍼灸不適応な病態を鑑別できる
- ②臨床推論に必要な知識と判断力を備える

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①オリエンテーション	小児鍼実技1	
②小児鍼実技2	症例検討1	筆記小テスト
③バランステストによる治療法1	症例検討2	筆記小テスト
④バランステストによる治療法2	症例検討3	筆記小テスト
⑤バランステストによる治療法3	症例検討4	筆記小テスト
⑥バランステストによる治療法4	症例検討5	筆記小テスト
⑦バランステストによる治療法5	症例検討6	筆記小テスト
⑧バランステストによる治療法6	症例検討7	筆記小テスト

III. 教育資源(ガイドライン)

鍼灸用具 筆記用具

IV. 評価

- ①小テスト点数
- ②授業態度

V. 注意点 その他

白衣は毎時間着用する事。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	臨床取穴実技
授業形態	実技
単位数(授業時数)	1単位(30単位)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

1年・2年で学習した経絡経穴と現代医学的意義をふまえ、部位別での経穴の局所解剖と十四経での要穴を中心に復習するとともに、部位別での経穴の取穴を完全にマスターできるようにする。また、十四経絡の流注と経絡走行上の病証との関連を学習し、それを応用して臨床に結びつける知識を身につける。

2. 行動目標(SBOs)

1)知識(認知領域)

- ①奇経八脈の意義を理解できる
- ②古代刺法・経筋治療の現代医学的意義が言える
- ③経絡の流注が理解できる
- ④要穴の意義が理解できる
- ⑤経穴とその局所解剖が理解できる

2)技能(精神領域)

- ①奇経八脈の臨床応用ができる
- ②古代刺法・経筋治療の臨床応用ができる部
- ③位別に経穴を取穴することができる
- ④十四経に属する経穴の局所解剖や要穴が理解できる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-------------|-------|
| ①要穴の意義・骨度 | 講義・実技 |
| ②上肢の経穴1 | 講義・実技 |
| ③上肢の経穴2 | 講義・実技 |
| ④下肢の経穴1 | 講義・実技 |
| ⑤下肢の経穴2 | 講義・実技 |
| ⑥頭顔面の経穴1 | 講義・実技 |
| ⑦頭顔面の経穴 | 講義・実技 |
| ⑧古代刺法・経筋治療1 | 講義・実技 |
| ⑨古代刺法・経筋治療2 | 講義・実技 |
| ⑩古代刺法・経筋治療3 | 講義・実技 |
| ⑪古代刺法・経筋治療4 | 講義・実技 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬復習 | 講義・実技 |

⑭奇経治療1

講義・実技

⑮奇経治療2

講義・実技

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

教科書、筆記用具、実技道具・白衣(必ず授業前に着用すること)

Ⅳ. 評価

定期テスト、課題提出・平常点の総合評価

Ⅴ. 注意点 その他

毎時間、課題(宿題)があるため必ず翌週に提出すること。(翌週以外の提出は受け付けない)

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	臨床実習Ⅰ
授業形態	実習

単位数(授業時数) 1単位(45時)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に鍼灸師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ①臨床の場で鍼灸治療を学ぶ(刺鍼や施灸をするだけが鍼灸治療および臨床実習ではない)
- ②単に疾患、病態だけではなく、病める人としてとらえ、鍼灸治療を行っていくなかで実際に患者さんに接して、患者さんと鍼灸師の人間関係のあり方、医療人としての自覚を身につける。
- ③みどりの風鍼灸院のスタッフとしての動き、患者さんに対する接遇を積極的に学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

3年間での実習内容

診療準備、電話応対、患者さん対応、診療予約・予約変更、血圧・脈拍測定、治療見学、治療助手活動全般(取穴、施灸、刺鍼等)、診療後片づけなどを臨床の現場で身につける。

II. 学習方略

1. 実習場所

森ノ宮医療学園附属みどりの風鍼灸院

大阪市東成区中本3-15-18(3F) TEL 06-6976-3902

2. 参加日程・曜日・時間

月・火・水・木・金曜日のいずれか

時間:13:10～ (午後診)

3. 出欠の確認・実習の開始時間

①PM1:10までに鍼灸院更衣室で臨床実習時の服装に着替え、カンファレンスルーム2に集合して自己チェック表を完成しておく。

②PM 1:10に出欠を確認して、臨床実習を開始します。

4. 臨床実習日程表の掲示について

①場 所:教室掲示板

②掲示日:6月

5. 学習内容(1年次)

診療準備、診療後片づけなど鍼灸院での基本的な流れや動きを理解する。電話応対、診療予約・予約変更など、患者さんに対する接遇を身につける。血圧・脈拍測定。

6. 学習形態

各学生の技能に併せた参加型・ステップアップ方式

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

1. 服装

【集合時の服装】

男性・・・ビジネススーツ上下を着用・ネクタイ・白い無地のワイシャツ

※5月1日～10月31日;ネクタイ・半袖の白い無地のワイシャツでも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

女性・・・ビジネススーツ上下を着用・白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)

※5月1日～10月31日;半袖の白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)でも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

【実習時の服装】

白衣上下・上履き

- ・白衣は洗濯済みで、シワがなく清潔である
- ・男性は白い無地のワイシャツにネクタイ、白ズボンである
- ・女性は白い無地のブラウスカ白い無地のTシャツ、白ズボンである
- ・白衣の袖からシャツが出ていない
- ・白衣ズボンの裾が床に着かない(裾上げをきちんとする。折り込むだけでは不可)
- ・靴下は必ず履くこと。(注意:パストは禁止!)目立たない型・色である(ショートソックスは不可。くるぶしは隠れていること)
- ・白色の上履きである(学校指定の上履きに限る)

2. 持ち物

- ・黒のボールペンがある(シンプルなデザイン)
- ・メモ帳がある(ノート型に限る。用紙のみは不可)
- ・臨床実習用指定名札

Ⅳ. 評価

遅刻、出欠、実習意欲・態度、身なり(服装・髪型・髪色)、忘れ物(名札、黒色ボールペン、メモ帳等)、レポートの内容を総合的に評価する。

Ⅴ. 注意点 その他

1. 服装、身なりに関する注意(患者さんに不快感を与えないこと)

- ・髪型は奇抜でないこと。(ジェル等で立てたりしない。)
- ・髪の色を極端に変色・脱色しないこと。(髪色スケール・レベル6以下であること。)
- ・長い髪は束ねている。
- ・前髪は垂れないようにピン等で留めること。(目にかからないように上げておく。)
- ・華美な化粧は控えること。(香りの強い化粧品、香水を避ける。)
- ・不快な口臭・体臭に十分注意すること。(前日の食事に気をつける。)
- ・爪をきちんと切り、マニキュアはしないこと。
- ・ひげ・過度のもみあげは剃り残しがなく綺麗に剃ってある。

- ・奇抜で目立つメガネはさける。
- ・時計・ピアス・指輪・ブレスレット・ネックレスなどの装飾品を身に着けないこと。

※上記以外でも全体の印象が悪いと判断された場合は、注意を受けることがあります。

学校施設外での臨床実習ですので、鍼灸師スタッフの指示に従ってください。

①着替え・貴重品について

3階カンファレンスルームの男子更衣室・ロッカー、女子更衣室・ロッカーを利用してください。その際、貴重品は各自しっかり管理してロッカーは施錠すること。

②実習終了後は、ロッカーに荷物を入れたまま、鍵を持って帰らないこと。必ずロッカーを空にして鍵を付けてください。

③各クールの最終実習日は、白衣・ズボン・上履き、等はすべて持って帰ること。

注意:そのまま、放置している物はすべて処分します。

④トイレの使用について

実習時は鍼灸院スタッフに一声かけて鍼灸院内のトイレを使用してください。

2. 出欠の判定は実習への参加とレポートの提出をもって出席とする。レポート提出のない場合は欠席となる。実習レポートの提出場所:本校舎2階受付 ※受領書は大切に保管しておくこと

3. 遅刻

①開始時間から30分以内までは遅刻とする。

②遅刻2回で1欠席とする。

4. 欠席 <仕事による欠席はいつさい認めない>

①開始時間から30分を越えると欠席となる。

(やむを得ず欠席する場合は必ずみどりの風鍼灸院に連絡してください)

②連絡先:06-6976-3902(みどりの風鍼灸院直通)

5. 欠席届(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

やむを得ず欠席する場合は「臨床実習欠席届」を各学年担任に必ず提出する。

6. 交通機関の延着証明がある場合、延着時間に応じ基本的に出席扱いとする。

7. 実習日の変更(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

臨床実習の日程の変更は一切認めていません。

ただし、以下の①～③をすべて満たした場合に限り変更を認めます。

- ① 実習日の日程掲示後、変更指定期間内に実習日変更届をみどりの風鍼灸院に提出する。
- ② 実習日変更届は**変更者二人の氏名・学籍番号の記入、捺印**と二人の内どちらか一人が責任をもって提出する。※長期欠席者や空白への日程の変更はできません。
- ③ 変更は両名が同一クール内で、すべての実習日の変更とする(1日のみは不可)

8. 交通機関のストライキ及び警報発令時の取り扱い

- ①JR西日本に加えて阪急、阪神、南海、近鉄、京阪、大阪市営地下鉄のいずれか1社以上がストライキを実施している場合、午前コースは午前7時現在においてスト決行中のとき休校となり、臨床実習も中止となる。
※ただし、夏季、冬季、春季における休業期間中は、午前11時現在においてスト決行中のとき臨床実習は中止となる。

- ② 大阪府下に暴風警報が発令された場合、午前コースは午前7時現在において発令中のとき休校となり、臨床実習も中止となる。

※ただし、夏季、冬季、春季における休業期間中は、午前11時現在において発令中のとき臨床実習は中止となる。

9. 臨床実習に当たっての注意

- ・私語は慎むこと。
- ・節度ある態度を取ること
- ・患者さんに不快感を与える身なり・服装・行動は慎むこと。
- ・鍼灸医学発展のために患者さんにご協力を頂いていることを忘れないこと。
- ・患者さんに感謝する気持ちを持つこと。

10. 臨床実習の禁止および中止

- ①みどりの風鍼灸院における臨床実習において、身なり(服装不備、髪型、髪色を含む)・持ち物・態度などが臨床実習に不適切と判断された場合、鍼灸院への入室を禁止、または実習を中止し、欠席とする。

- ②臨床実習における車・バイクや自転車での集合は禁止です。

駐車場・駐輪場は鍼灸院患者さんの為のものです。車・バイク・自転車を駐車・駐輪をした場合、鍼灸院の実習は中止し、欠席とする。

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
単位数(授業時数)	1単位(45時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に鍼灸師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ①臨床の場で鍼灸治療を学ぶ(刺鍼や施灸をするだけが鍼灸治療および臨床実習ではない)
- ②単に疾患、病態だけではなく、病める人としてとらえ、鍼灸治療を行っていくなかで実際に患者さんに接して、患者さんと鍼灸師の人間関係のあり方、医療人としての自覚を身につける。
- ③みどりの風鍼灸院のスタッフとしての動き、患者さんに対する接遇を積極的に学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

3年間での実習内容

診療準備、電話応対、患者さん対応、診療予約・予約変更、血圧・脈拍測定、治療見学、治療助手活動全般(取穴、施灸、検査法、刺鍼等)、診療後片づけなどを臨床の現場で身につける。

II. 学習方略

1. 実習場所

森ノ宮医療学園附属みどりの風鍼灸院

大阪市東成区中本3-15-18(3F) TEL 06-6976-3902

2. 参加日程・曜日・時間

月・火・水・木・金曜日のいずれか

実習時間 PM 1:10 ~ (午後診)

3. 出欠の確認・実習の開始時間

- ①PM1:10までに鍼灸院更衣室で臨床実習時の服装に着替え、カンファレンスルーム2に集合して自己チェック表を完成しておく。
- ②PM 1:10に出欠を確認して、臨床実習を開始します。

4. 臨床実習日程表の掲示について

- ①場 所:教室掲示板
- ②掲示日:2月末頃

5. 学習内容(2年次)

診療準備、診療後片づけ。電話応対、診療予約・予約変更など、患者さんに対する接遇を身につける。血圧・脈拍測定。検査法、治療助手活動(取穴、施灸等)。

6. 学習形態

各学生の技能に併せた参加型・ステップアップ方式

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

1. 服装

【集合時の服装】

男性・・・ビジネススーツ上下を着用・ネクタイ・白い無地のワイシャツ

※5月1日～10月31日;ネクタイ・半袖の白い無地のワイシャツでも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

女性・・・ビジネススーツ上下を着用・白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)

※5月1日～10月31日;半袖の白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)でも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

【実習時の服装】

白衣上下・上履き

- ・白衣は洗濯済みで、シワがなく清潔である
- ・男性は白い無地のワイシャツにネクタイ、白ズボンである
- ・女性は白い無地のブラウスカ白い無地のTシャツ、白ズボンである
- ・白衣の袖からシャツが出ていない
- ・白衣ズボンの裾が床に着かない(裾上げをきちんとする。折り込むだけでは不可)
- ・靴下は必ず履くこと。(注意:パストは禁止！)目立たない型・色である(ショートソックスは不可。くるぶしは隠れていること)
- ・白色の上履きである(学校指定の上履き、又は事前に鍼灸院院長の許可を受けたものに限る)

2. 持ち物

- ・黒のボールペンがある(シンプルなデザイン)フリクションボールペンは不可
- ・メモ帳がある(ノート型に限る。用紙のみは不可)
- ・臨床実習用指定名札

Ⅳ. 評価

遅刻、出欠、実習意欲・態度、身なり(服装・髪型・髪色)、忘れ物(名札、黒色ボールペン、メモ帳等)、レポートの内容を総合的に評価する。

Ⅴ. 注意点 その他

1. 服装、身なりに関する注意(患者さんに不快感を与えないこと)

- ・髪型は奇抜でないこと。(ジェル等で立てたりしない。)
- ・髪の色を極端に変色・脱色しないこと。(髪色スケール・レベル7以下であること。)
- ・長い髪は束ねている。
- ・前髪は垂れないようにピン等で留めること。(目にかからないように上げておく。)
- ・華美な化粧は控えること。(香りの強い化粧品、香水を避ける。)
- ・不快な口臭・体臭に十分注意すること。(前日の食事に気をつける。)
- ・爪をきちんと切り、マニキュアはしないこと。

- ・ひげ・過度のもみあげは剃り残しがなく綺麗に剃ってある。
- ・奇抜で目立つメガネはさける。
- ・時計・ピアス・指輪・ブレスレット・ネックレスなどの装飾品を身に着けないこと。

※上記以外でも全体の印象が悪いと判断された場合は、注意を受けることがあります。

学校施設外での臨床実習ですので、鍼灸師スタッフの指示に従ってください。

①着替え・貴重品について

3階カンファレンスルームの男子更衣室・ロッカー、女子更衣室・ロッカーを利用してください。その際、貴重品は各自しっかり管理してロッカーは施錠すること。

②実習終了後は、ロッカーに荷物を入れたまま、鍵を持って帰らないこと。必ずロッカーを空にして鍵を付けてください。

③各クールの最終実習日は、白衣・ズボン・上履き、等はすべて持って帰ること。

注意:そのまま、放置している物はすべて処分します。

④トイレの使用について

実習時は鍼灸院スタッフに一声かけて鍼灸院内のトイレを使用してください。

2. 出欠の判定は実習への参加とレポートの提出をもって出席とする。レポート提出のない場合は欠席となる。実習レポートの提出場所:本校舎2階受付 ※受領書は大切に保管しておくこと

3. 遅刻

①開始時間から30分以内までは遅刻とする。

②遅刻2回で1欠席とする。

4. 欠席 <仕事による欠席はいつさい認めない>

①開始時間から30分を越えると欠席となる。

(やむを得ず欠席する場合は必ずみどりの風鍼灸院に連絡してください)

②同年度内の欠席2回で単位未修得になり留年対象となります。

③連絡先:06-6976-3902(みどりの風鍼灸院直通)

5. 欠席届(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

やむを得ず欠席する場合は「臨床実習欠席届」を各学年担任に必ず提出する。

6. 交通機関の延着証明がある場合、延着時間に応じ基本的に出席扱いとする。

7. 実習日の変更(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

臨床実習の日程の変更は一切認めていません。

ただし、以下の①～③をすべて満たした場合に限り変更を認めます。

- ① 実習日の日程揭示後、変更指定期間内に実習日変更届をみどりの風鍼灸院に提出する。
- ② 実習日変更届は**変更者二人の氏名・学籍番号の記入、捺印**と二人の内どちらか一人が責任をもって提出する。※長期欠席者や空白への日程の変更はできません。
- ③ 変更は両名が同一クール内で、すべての実習日の変更とする(1日のみは不可)

8. 交通機関のストライキ及び警報発令時の取り扱い

- ① JR西日本に加えて阪急、阪神、南海、近鉄、京阪、大阪市営地下鉄のいずれか1社以上がストライキを実施している場合、午前コースは午前7時現在においてスト決行中のとき休校となり、臨床実習も中止となる。

※ただし、夏季、冬季、春季における休業期間中は、午前11時現在においてスト決行中のとき臨床実習は中止となる。

- ② 大阪府下に暴風警報が発令された場合、午前コースは午前7時現在において発令中のとき休校となり、臨床実習も中止となる。

※ただし、夏季、冬季、春季における休業期間中は、午前11時現在において発令中のとき臨床実習は中止となる。

9. 臨床実習に当たっての注意

- ・私語は慎むこと。
- ・節度ある態度を取ること
- ・患者さんに不快感を与える身なり・服装・行動は慎むこと。
- ・鍼灸医学発展のために患者さんにご協力を頂いていることを忘れないこと。
- ・患者さんに感謝する気持ちを持つこと。

10. 臨床実習の禁止および中止

- ①みどりの風鍼灸院における臨床実習において、身なり(服装不備、髪型、髪色を含む)・持ち物・態度などが臨床実習に不適切と判断された場合、鍼灸院への入室を禁止、または実習を中止し、欠席とする。

- ②臨床実習における車・バイクや自転車での集合は禁止です。

駐車場・駐輪場は鍼灸院患者さんの為のものです。車・バイク・自転車を駐車・駐輪をした場合、鍼灸院の実習は中止し、欠席とする。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	臨床実習Ⅲ
授業形態	実習
単位数(授業時数)	2単位(90時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に鍼灸師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ①臨床の場で鍼灸治療を学ぶ(刺鍼や施灸をするだけが鍼灸治療および臨床実習ではない)
- ②単に疾患、病態だけではなく、病める人としてとらえ、鍼灸治療を行っていくなかで実際に患者さんに接して、患者さんと鍼灸師の人間関係のあり方、医療人としての自覚を身につける。
- ③みどりの風鍼灸院のスタッフとしての動き、患者さんに対する接遇を積極的に学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

3年間での実習内容

診療準備、電話対応、患者さん対応、診療予約・予約変更、血圧・脈拍測定、治療見学、治療助手活動全般(取穴、施灸、刺鍼等)、診療後片づけなどを臨床の現場で身につける。

II. 学習方略

1. 実習場所

森ノ宮医療学園附属みどりの風鍼灸院

大阪市東成区中本3-15-18(3F) TEL 06-6976-3902

2. 参加日程・曜日・時間

実習曜日: 月・火・水・木・金曜日のいずれか

実習時間: PM 1:10 ~ (午後診)またはPM 4:00 ~ (夜間診)

3. 出欠の確認・実習の開始時間

- ①PM4:00(PM 1:10)までに鍼灸院更衣室で臨床実習時の服装に着替え、カンファレンスルーム2に集合して自己チェック表を完成しておく。
- ②PM 4:00(PM 1:10)に出欠を確認して、臨床実習を開始します。

4. 臨床実習日程表の掲示について

- ①場 所:教室掲示板
- ②掲示日:2月末頃

5. 学習内容(3年次)

診療準備、診療後片づけ。電話対応、診療予約・予約変更など、患者さんに対する接遇を身につける。血圧・脈拍測定。治療助手活動(取穴、施灸、刺鍼等)。

6. 学習形態

各学生の技能に併せた参加型・ステップアップ方式

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

1. 服装

【集合時の服装】

男性・・・ビジネススーツ上下を着用・ネクタイ・白い無地のワイシャツ

※5月1日～10月31日;ネクタイ・半袖の白い無地のワイシャツでも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

女性・・・ビジネススーツ上下を着用・白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)

※5月1日～10月31日;半袖の白い無地のビジネスブラウス(レギュラー襟)でも可

特にビジネススーツの上着を着用しなくても可

【実習時の服装】

白衣上下・上履き

- ・白衣は洗濯済みで、シワがなく清潔である
- ・男性は白い無地のワイシャツにネクタイ、白ズボンである
- ・女性は白い無地のブラウスカ白い無地のTシャツ、白ズボンである
- ・白衣の袖からシャツが出ていない
- ・白衣ズボンの裾が床に着かない(裾上げをきちんとする。折り込むだけでは不可)
- ・靴下は必ず履くこと。(注意:パンストは禁止!)目立たない型・色である(ショートソックスは不可。くるぶしは隠れていること)
- ・白色の上履きである(学校指定の上履き、又は事前に鍼灸院院長の許可を受けたものに限る)

2. 持ち物

- ・黒のボールペンがある(シンプルデザイン)フリクションボールペンは不可
- ・メモ帳がある(ノート型に限る。用紙のみは不可)
- ・臨床実習用指定名札

Ⅳ. 評価

遅刻、出欠、実習意欲・態度、身なり(服装・髪型・髪色)、忘れ物(名札、黒色ボールペン、メモ帳等)、レポートの内容を総合的に評価する。

Ⅴ. 注意点 その他

1. 服装、身なりに関する注意(患者さんに不快感を与えないこと)

- ・髪型は奇抜でないこと。(ジェル等で立てたりしない。)
- ・髪の色を極端に変色・脱色しないこと。(髪色スケール・レベル7以下であること。)
- ・長い髪は束ねている。
- ・前髪は垂れないようにピン等で留めること。(目にかからないように上げておく。)
- ・華美な化粧は控えること。(香りの強い化粧品、香水を避ける。)
- ・不快な口臭・体臭に十分注意すること。(前日の食事に気をつける。)
- ・爪をきちんと切り、マニキュアはしないこと。
- ・ひげ・過度のもみあげは剃り残しがなく綺麗に剃ってある。

- ・奇抜で目立つメガネはさける。
- ・時計・ピアス・指輪・ブレスレット・ネックレスなどの装飾品を身に着けないこと。

※上記以外でも全体の印象が悪いと判断された場合は、注意を受けることがあります。

学校施設外での臨床実習ですので、鍼灸師スタッフの指示に従ってください。

①着替え・貴重品について

3階カンファレンスルームの男子更衣室・ロッカー、女子更衣室・ロッカーを利用してください。その際、貴重品は各自しっかり管理してロッカーは施錠すること。

②実習終了後は、ロッカーに荷物を入れたまま、鍵を持って帰らないこと。必ずロッカーを空にして鍵を付けてください。

③各クールの最終実習日は、白衣・ズボン・上履き、等はすべて持って帰ること。

注意:そのまま、放置している物はすべて処分します。

④トイレの使用について

実習時は鍼灸院スタッフに一声かけて鍼灸院内のトイレを使用してください。

2. 出欠の判定は実習への参加とレポートの提出をもって出席とする。レポート提出のない場合は欠席となる。実習レポートの提出場所:本校舎2階受付 ※受領書は大切に保管しておくこと

3. 遅刻

①開始時間から30分以内までは遅刻とする。

②遅刻2回で1欠席とする。

4. 欠席 <仕事による欠席はいつさい認めない>

①開始時間から30分を越えると欠席となる。

(やむを得ず欠席する場合は必ずみどりの風鍼灸院に連絡してください)

②同年度内の欠席2回で単位未修得になり留年対象となります。

③連絡先:06-6976-3902(みどりの風鍼灸院直通)

5. 欠席届(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

やむを得ず欠席する場合は「臨床実習欠席届」を各学年担任に必ず提出する。

6. 交通機関の延着証明がある場合、延着時間に応じ基本的に出席扱いとする。

7. 実習日の変更(用紙は本校舎2階受付でもらう事)

臨床実習の日程の変更は一切認めていません。

ただし、以下の①～③をすべて満たした場合に限り変更を認めます。

- ① 実習日の日程揭示後、変更指定期間内に実習日変更届をみどりの風鍼灸院に提出する。
- ② 実習日変更届は**変更者二人の氏名・学籍番号の記入、捺印**と二人の内どちらか一人が責任をもって提出する。※長期欠席者や空白への日程の変更はできません。
- ③ 変更は両名が同一クール内で、すべての実習日の変更とする(1日のみは不可)

8. 交通機関のストライキ及び警報発令時の取り扱い

①JR西日本と私鉄(阪急、阪神、南海、近鉄、京阪のうち1社以上)がストライキを予定している場合。

②JR西日本と大阪地下鉄がストライキを予定している場合。

③大阪府下に暴風警報が発令された場合、あるいは台風が大阪府下に接近し、大阪府下に暴風警報が発令されなくても、兵庫県南部、和歌山県北部に暴風警報が発令された場合。

★AM 臨床実習の中止 → 午前7:00現在、スト決行中、あるいは暴風警報が出ている場合。

★PM 臨床実習の中止 → 午前11:00現在、スト決行中、あるいは暴風警報が出ている場合。

9. 臨床実習に当たっての注意

- ・私語は慎むこと。
- ・節度ある態度を取ること
- ・患者さんに不快感を与える身なり・服装・行動は慎むこと。
- ・鍼灸医学発展のために患者さんにご協力を頂いていることを忘れないこと。
- ・患者さんに感謝する気持ちを持つこと。

10. 臨床実習の禁止および中止

- ①みどりの風鍼灸院における臨床実習において、身なり(服装不備、髪型、髪色を含む)・持ち物・態度などが臨床実習に不適切と判断された場合、鍼灸院への入室を禁止、または実習を中止し、欠席とする。
- ②臨床実習における車・バイクや自転車での集合は禁止です。駐車場・駐輪場は鍼灸院患者さんの為のものです。車・バイク・自転車を駐車・駐輪をした場合、鍼灸院の実習は中止し、欠席とする。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	応用生理学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(36時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人体におけるそれぞれの機能的役割を正確に理解し、統合的な人体の仕組みを説明できる。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 生命現象を扱う生理学の特徴、体を構成する細胞の構造と働き、細胞内での物質代謝、細胞内外を満たす体液の組成や働きについて説明できる。
- 2) 消化器系の各器官における消化の特徴や吸収の仕組み、吸収された栄養素の代謝に重要な肝臓の働きを説明できる。
- 3) 各栄養素の働きと代謝について説明できる。
- 4) 腎臓の尿の生成機構と細胞外液成分の濃度調節、膀胱の尿排泄機構を説明できる。
- 5) 外呼吸に携わる呼吸器系の働きと肺や組織におけるガス交換、および呼吸の調節の仕組みについて説明できる。
- 6) 骨格筋の例について筋収縮の性質や仕組みを述べ、心筋と平滑筋についても簡単に説明できる。
- 7) 身体運動の調節の仕組みを、骨格筋の神経支配と中枢神経系の各レベルによる運動調節の機構について順を追って説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 第1章「生理学の基礎」	国試対策演習	講義
② 第5章「消化と吸収」	国試対策演習	講義
③ 第5章「消化と吸収」	国試対策演習	講義
④ 第6章「栄養と代謝」	国試対策演習	講義
⑤ 第8章「排泄」	国試対策演習	講義
⑥ 第8章「排泄」	国試対策演習	講義
⑦ 第4章「呼吸」	国試対策演習	講義
⑧ 第4章「呼吸」	国試対策演習	講義
⑨ 第13章「筋」	国試対策演習	講義
⑩ 第14章「運動」	国試対策演習	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

「生理学 第2版」(社)東洋療法学校協会編 佐藤優子、佐藤昭夫 他著 医歯薬出版(株)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

範囲が広がります。復習を十分して下さい。

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	環境学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(20時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

疾病予防と健康の保持・増進の為の行動・活動の全般についての知識を習得する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①健康の概念、健康管理全般について理解する
- ②食生活と健康との関わりについて理解する
- ③日常生活環境および環境問題を理解する
- ④保健福祉を理解する
- ⑤感染症予防のための法律・制度について理解する
- ⑥保健統計の各種指標とその意義を理解する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-------------------|-------|
| ① 衛生学の活動と意義、健康の概要 | 講義・復習 |
| ② 健康管理・衛生行政・医療制度 | 講義・復習 |
| ③ 食生活、食品と疾病 | 講義・復習 |
| ④ 環境とは・日常生活環境 | 講義・復習 |
| ⑤ 環境汚染・地球規模の環境問題 | 講義・復習 |
| ⑥ 産業、精神保健 | 講義・復習 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書 「衛生学・公衆衛生学」 医歯薬出版

参考書 「国民衛生の動向」 厚生統計協会編

IV. 評価

試験により評価する

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	応用診察論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

患者の訴える症状や外見上で得られる様子から病態を推測し、診断に必要な診察所見を選別していく能力身につける。鍼灸師として患者にとって適切な治療法を提示するために正確な鑑別診断ができることを目標とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①身体の各部位に正確な診察ができ、その結果の臨床意義を説明することが出来る。
- ②診察の技法・意義や各種の臨床検査などの知識を身に付け、卒試や国試の問題解決能力を養う。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

- | | |
|-----------|----|
| ①おもな症状の診察 | 講義 |
| ②おもな症状の診察 | 講義 |
| ③全身の診察 | 講義 |
| ④局所の診察 | 講義 |
| ⑤神経系の診察 | 講義 |
| ⑥神経系の診察 | 講義 |
| ⑦運動機能検査 | 講義 |
| ⑧臨床検査法 | 講義 |
| ⑨生命徴候 | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

臨床医学総論 (社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 医歯薬出版株式会社

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	中医概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(32時間)

I. 学習目標

1 一般目標(GIO)

1・2年生で学習した東洋医学概論の概要を理解した上で、その基本的な問題や過去の国家試験問題を解いていき、知識を定着させ国家試験に臨む。

2 行動目標(SBOs)

東洋医学の基礎理論を理解し、得られた知識を幅広く用い、4 択問題に対応できるようにする。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 東洋医学の特色・五行論・陰陽論	講義／教室
② 気・血・津液	講義／教室
③ 蔵象①(五臓)	講義／教室
④ 蔵象②(六腑・奇恒の腑)	講義／教室
⑤ 蔵象③(問題)	講義／教室
⑥ 病因病機①	講義／教室
⑦ 病因病機②	講義／教室
⑧ 八綱弁証、気血津液精の病証	講義／教室
⑨ 臓腑病証①	講義／教室
⑩ まとめ①	講義／教室

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ・東洋医学概論(社)東洋療法学校協会編 教科書執筆小委員会著 医道の日本社
- ・プリント
- ・国家試験過去問題集

IV. 評価

試験(4択問題)にて実施

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	基礎医学演習
授業形態	演習
単位数(授業時数)	4単位(66時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- ①これまで学んだ基礎医学に関する知識を確かなものとする
- ②鍼灸師として必要な技術を身に付ける

2. 行動目標(SBOs)

- ①積極的に授業に参加する
- ②基礎はり・きゅう実技で学んだ技術を活用する

II. 学習方略

1. 授業日程・内容 ・授業形態

- 1. 生物学1
- 2. 生物学2
- 3. 生理学1
- 4. 生理学2
- 5. 解剖学1
- 6. 解剖学2
- 7. はり実技・きゅう実技1
- 8. はり実技・きゅう実技2
- 9. はり実技・きゅう実技3
- 10. まとめ

2. 授業形態

オムニバス形式での演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

配布プリント

IV. 評価

レポート提出、授業への参加および態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	総合医学演習
授業形態	演習
単位数(授業時数)	2単位(40時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

2年間学んできた実技(医療面接、診察、治療、カルテ記載)の総チェック。互いに学生としてではなく一患者、一治療者となり臨床現場を再現して、自分の技術の最終チェックを行う。

2. 行動目標(SBOs)

- ①自分の実際に辛い愁訴に対して、2人の学生による治療を体験することによって患者側からの視点を養う。
- ②2人の学生が訴える本当の愁訴に対して、医療面接からカルテの記載まで一連の診療を行い、自分の各技術の再確認を行う。
- ③患者側からの評価をもらい技術向上の材料とする。

II. 学習方略

- ① オリエンテーション
- ② 診療実践①A ― 学生同士による診察～治療～カルテの記載まで
- ③ 診療実践①B ― 学生同士による診察～治療～カルテの記載まで
- ④ カルテの記載法の解説
- ⑤ 診療実践②A ― 学生同士による診察～治療～カルテの記載まで
- ⑥ 診療実践②B ― 学生同士による診察～治療～カルテの記載まで
- ⑦ 診療実践の総括 ― 診療実践①～④の総評

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ① 資料配布
- ② 実技当番が用意するもの
鍼・灸備品一式(トレイ、角バット、ハンドパス、万能ツボ(角綿)、ハンドラップ、パレット、毫鍼、線香、モグサなど)

IV. 評価

- ①カルテの内容、
- ②学習態度

V. 注意点 その他

- ①診療現場を再現させるために患者、治療者はそれぞれの役に徹すること。
- ②シミュレーション治療ではないので医療面接の結果などは秘密厳守すること。
- ③教員が危険行為、不真面目な態度とみなしたときは退場を命じることがある。

学科・学年・コース	鍼灸学科・1年・全コース
科目名	総合演習 I
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	4単位(70時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- (1) あはき師の歴史を学び、鍼灸学へ興味を持つ
- (2) 人体の構造と機能に興味を持つ
- (3) 鍼灸を受療し、患者の気持ちが理解できるようになる
- (4) 学力診断を行い、自分の強み、弱みを把握する

2. 行動目標(SBOs)

- (1) はり師・きゅう師の将来像を描く
- (2) あはき師の歴史を踏まえ、鍼灸師の役割を説明する
- (3) 強み、弱みを理解し、勉強方法を確立する

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

1. あはき師の歴史1(オリエンテーション)
2. あはき師の歴史2(オリエンテーション)
3. あはき師の歴史3(オリエンテーション)
4. あはき師の歴史4(学会)
5. レクリエーション1(体育実習)
6. レクリエーション2(体育実習)
7. 患者体験(受療体験)
8. 人体の機能と構造(基礎ゼミ)
9. 学力診断1(模試)
10. 学力診断2(模試)

2. 授業形態

基本的には講義または演習です

III. 教育資源(テキスト、その他)

配布プリント

IV. 評価

レポート提出、授業への参加および態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・2年・全コース
科目名	総合演習Ⅱ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	5単位(80時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- (1) 鍼灸の各流派を知る
- (2) 専門性の高い鍼灸治療を身につける
- (3) 鍼灸トピックスを知る
- (4) 生命の尊さを理解する
- (5) 学力診断を行い、自分の強み、弱みを理解する

2. 行動目標(SBOs)

- (1) 各流派の特徴を説明する
- (2) 専門性の高い鍼灸治療が行える
- (3) 強み、弱みを理解し、勉強方法を確立する

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

1. 鍼灸治療法1(とくゼミ)
2. 鍼灸治療法2(とくゼミ)
3. 鍼灸治効理論1(懇話会)
4. 鍼灸治効理論2(懇話会)
5. 鍼灸トピックス1(学会)
6. 鍼灸トピックス2(オリエンテーション)
7. 医療従事者としての倫理(解剖実習)
8. 患者体験(受療体験)
9. 学力診断1(模試)
10. 学力診断2(模試)

2. 授業形態

基本的には講義または演習です

III. 教育資源(テキスト、その他)

配布プリント

IV. 評価

レポート提出、授業への参加および態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	鍼灸学科・3年・全コース
科目名	総合演習Ⅲ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	6単位(100時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- (1)国家試験の傾向を理解する
- (2)学力診断を行い、自分の強み、弱みを把握する
- (3)医療倫理、患者心理を学び、安心な施術ができるようになる

2. 行動目標(SBOs)

- (1)近年の国家試験の傾向を理解し、学力診断の結果を基に、これからの勉強方法や学習計画をたてられる
- (2)鍼灸師の社会的役割を理解した上で患者に安心な施術ができるようになること、また、適切な日常生活の指導が行える

II. 学習方略

1. 授業日程・内容・授業形態

1. 国家試験の傾向(オリエンテーション)
2. 学力診断1(模試)
3. 学力診断2(模試)
4. 学力診断3(模試)
5. 学力診断4(模試)
6. 学力診断5(模試)
7. 学力診断6(模試)
8. 学力診断7(模試)
9. 学力診断8(模試)
10. 学力診断9(模試)
- 11.患者体験(受療体験)
- 12.医療倫理(解剖実習)
- 13.鍼灸臨床総括(実技審査)

2. 授業形態

基本的には講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

配布プリント

IV. 評価

レポート提出、授業への参加および態度

V. 注意点 その他

2026 年度 柔道整復学科 シラバス

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	心身健康科学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

人間のこころとからだは密接不可分であるとする心身一如(心身相関)の考え方について、その哲学、宗教的、科学的な背景を学習するとともに、心身一如を支える科学的メカニズムを学び、人間の健康の実現に応用する視点を修得することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

1. 哲学や思想史のなかで心身一如がどのように扱われてきたのかを説明できる。
2. からだの感覚の生理学的仕組みを説明できる。
3. 体表への刺激が、こころや身体機能にどのような影響を与えるか説明できる。
4. 身体機能の振動現象とこころの関連性を説明できる。
5. 人間の健康の実現に心身一如の科学を応用するために必要となる視点を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

第I章 心身一如と心身相関の科学

古くから哲学、宗教の領域で議論されてきた心身一如の思想を概観し、心身一如が注目される背景を人間の健康や幸福の実現という観点から科学的に捉え直し、その意義を社会的背景を踏まえながら探る。

第II章 現代科学と心身一如 - 1 からだの感覚と幸福感・健康

心身一如の仕組みについて、からだの感覚の基本的仕組みと、からだの感覚がこころや各種身体機能に及ぼす作用について学ぶ。心身の健康や幸福感に関わる種々生体の仕組みも学ぶ。この学習を介して、鍼灸・あんま・指圧・マッサージなどの体表に刺激を加える療法の効果の科学的仕組みを理解する。

第II章 現代科学と心身一如 - 2 からだのリズムとこころ

人間の身体機能に備わる様々なゆらぎ(振動現象)に注目して、生体の調節機構の関連やこころとの関連性を学ぶ。特に呼吸器系の振動現象とこころの関係について、脳科学の視点で理解する。心身相関の観点から人間の健康(Well-being)の実現に向けて応用するために必要となる重要な視点を考察する。

第III章 東洋医学からみた「心身一如の科学」の可能性 - 1 心身の調和(心身一如)と今日的な健康

「心身一如の科学」が心身相関の科学(心身健康科学)でもあることを理解する。

第III章 東洋医学からみた「心身一如の科学」の可能性 - 2 心身一如の科学と東洋医学

東洋医学の考え方に関連する現代科学の知見を理解する。

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

久住眞理/久住武/鈴木はる江/小岩信義「心身一如の科学」

Ⅳ. 評価

科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。

Ⅴ. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	心身健康科学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識する。

2. 行動目標(SBOs)

1. 健康と生活習慣の関係を概念として説明できる。
2. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる。
3. アルコールの健康影響を説明できる。
4. 喫煙の健康影響について説明できる。
5. 運動の意義と効果を説明できる。
6. 健康増進法、健康日本 21(第二次)について説明ができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

第1章 生活習慣病の特長:生活習慣病の名称の由来とその特徴について学ぶ

第2章 主な生活習慣病:がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病などの代表的な生活習慣病の概要を知るとともに、日本人の死亡原因との関連性について学ぶ

第3章 歯の健康:自分の歯で噛むことの意義、歯周病とした口腔内疾患について学ぶ

第4章 がんと生活習慣:発がんのメカニズムや一次予防の意義について学ぶ

第5章 肥満:栄養と運動:食の欧米化による肥満者の増加、危険因子としての肥満について学ぶ

第6章 メタボリックシンドローム:近年注目されている病態について学ぶ

第7章 飲酒習慣と健康:アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存について学ぶ

第8章 喫煙習慣:喫煙と副流煙がもたらす健康被害について学ぶ

第9章 生活習慣病対策:社会的に広がっている一次予防対策について学ぶ

上記以外として、健康日本 21(第二次):2013年4月から10年計画でスタートした健康増進法を基盤とした国の施策に対しても関心を向けて下さい。

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:まるごとわかる!生活習慣病

IV. 評価

科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。

V. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	心身健康科学Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

心理学とは、人間のこころの機能や行動を科学的に解明する学問であり、「こころ・からだ・文化」の側面から人間を総合的に理解するために欠くことのできない領域です。本科目では、人間の社会生活との接点から、心理学についての理解を深め、人々が心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に心理学を応用する方法について学びます。さらに「自立と共生」「創造性と人間性」を基礎に、日常および医療現場で役立つコミュニケーション力を養います。

2. 行動目標(SBOs)

1. 心理学を科学の一分野として説明することができる。
2. よりよいコミュニケーションについて、心理学に基づいて説明することができる。
3. よりよいコミュニケーションの基盤として、こころ・からだ・文化の側面から人間を総合的に理解することができる。
4. 自分および他者とのよりよいコミュニケーションのために、心理学を応用する方法を説明することができる。
5. 人々が心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築に心理学を応用する方法を説明することができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

本講義はテキストを基に行われる印刷授業である。テキストの内容は以下の通り。

1. こころの歴史

心理学の歴史と今後の発展について学ぶ

2. 脳と知覚のメカニズム

脳の構造と心のはたらき(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)について学ぶ

3. 学習と思考のメカニズム

より高度で複雑な心のはたらき(学習、記憶、思考、知能)について学ぶ

4. 対人関係の心理学

社会心理学の立場から、個人レベルから社会レベルにおける人間の行動および他社とのコミュニケーションについて学ぶ

5. 人間の発達

発達心理学の立場から、発達段階に応じた特徴と心のはたらきについて学ぶ

6. 心の健康と心理療法

心の健康に関する諸側面と様々な心理療法とともに他社とのコミュニケーションのあり方について学ぶ

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

「史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本」、大井晴策(監修)、ナツメ社、2012 年

Ⅳ. 評価

選択式の科目修了試験において 60 点以上を合格とする。

Ⅴ. 注意点 その他

テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。

本科目を「心理学」としてのみ捉えるのではなく、よりよい自己理解及び日常生活の中で営まれる自分と他者の関係理解につなげ、テキスト履修を成長のきっかけとしてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	生物学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(52時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

生命現象をより深く理解するために、生物学の基礎内容を学習し、科学的な素養を身につけることを目的とした授業を展開する。特に、生化学的な現象に関しては生命現象の根幹を成すものとして授業の中心に置いて進めていく。

2. 行動目標(SBOs)

- ・生物学の基礎を学習することで、多角的視点から生命についての概念を身につける。
- ・基礎的な科学的専門用語の意味を理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①生物の定義、大きさの単位	講義
②細胞内構造、細胞膜の構造	講義
③細胞内小器官①	講義
④細胞内小器官②	講義
⑤細胞構成成分①(タンパク質等)	講義
⑥細胞構成成分②(炭水化物等)	講義
⑦酵素と無機触媒①	講義
⑧酵素と無機触媒②	講義
⑨DNAの構造と複製	講義
⑩DNAの発現とタンパク質合成①	講義
⑪DNAの発現とタンパク質合成②	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: フォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁監修(数研出版)

参考書: 数研出版 チャート式シリーズ 新生物、同シリーズ 新化学

IV. 評価

定期試験(70%)+平常点[おもにレポート](30%)

V. 注意点 その他

基本的に教科書に沿ってプリントを用いた授業を進めるが、必要に応じて補助プリントを作成し配布する。教科書、およびプリントを整理しメモをとるためのクリアブック(A4)を持参すること。

毎回、授業の最後に授業内容のまとめと質問事項等のレポート提出を課す。これは平常点として評価に加味する。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	栄養学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

科学的根拠の有無にかかわらず食物と健康に関する情報が氾濫する現代において、医療人として様々な場面で栄養についての正しい判断を行えるようになるため、栄養学の基礎知識を習得し、望ましい食生活、食習慣について理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) 栄養とは何か、その意義について説明できる。
- 2) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 栄養の概念	講義
② 食物の摂取	講義
③ 消化・吸収と栄養素の体内動態 1	講義
④ 消化・吸収と栄養素の体内動態 2	講義
⑤ 消化・吸収と栄養素の体内動態 3	講義
⑥ たんぱく質の栄養 1	講義
⑦ たんぱく質の栄養 2	講義
⑧ 炭水化物の栄養 1	講義
⑨ 炭水化物の栄養 2	講義
⑩ 脂質の栄養 1	講義
⑪ 脂質の栄養 2	講義
⑫ まとめ	
⑬ 振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

適宜、プリントを配布します。

IV. 評価

試験により評価します。

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	健康と医療 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師に関する様々な内容のイントロダクションとする。

2. 行動目標(SBOs)

- ・身体の構造を理解する
- ・柔道整復師の成り立ちを理解する
- ・柔道整復師の技術の基本を理解する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-------------|----|
| ①柔道について1 | 講義 |
| ②身体の構造について1 | 講義 |
| ③身体の構造について2 | 講義 |
| ④柔道について2 | 講義 |
| ⑤柔道整復術について1 | 講義 |
| ⑥診断テスト | |
| ⑦運動機能について1 | 講義 |
| ⑧運動機能について2 | 講義 |
| ⑨運動機能について3 | 講義 |
| ⑩柔道整復術について2 | 演習 |
| ⑪柔道整復術について3 | 演習 |
| ⑫模擬試験 | |

III. 教育資源(テキスト、その他)

授業で配布するプリント

IV. 評価

平常点

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	健康と医療Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医療人として知っておくべき応急手当について学びます。

2. 行動目標(SBOs)

傷病者に接した際、適切な判断と適切な手当をできるようにします。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①応急手当について	講義
②傷病者の観察の基本	講義・演習
③一次救命処置1	講義
④一次救命処置2	講義
⑤一次救命処置3	実技
⑥一次救命処置4	実技
⑦止血法	講義・演習
⑧外傷の手当	講義・演習
⑨内科的疾患が疑われるときの手当	講義・演習
⑩頭部外傷、頸椎損傷に対する手当	講義・演習
⑪熱中症の手当	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義・演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

授業で配布するプリント

IV. 評価

定期試験にて評価します。

V. 注意点 その他

第8～11回の講義は、日本ライフセービング協会のBLS資格講習を兼ねています。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	解剖学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

解剖学の基本用語を学びます。また骨格系の中で脊柱、胸郭、上肢骨の構造と名称について学びます。

2. 行動目標(SBOs)

解剖学用語を正しく用いることができるようにします。また下肢と頭蓋以外の骨格について部位の名称を理解し、簡単な図示ができるようにします。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①解剖学用語	講義
②骨の構造	講義
③骨組織、骨の発生と成長	講義
④関節の構造	講義
⑤頸椎、胸椎、腰椎	講義
⑥仙骨、尾骨、脊椎の連結	講義
⑦胸郭	講義
⑧上肢帯の骨	講義
⑨上腕の骨	講義
⑩前腕の骨	講義
⑪手の骨	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

解剖学(医歯薬出版株式会社)、授業で配布するプリント

IV. 評価

定期試験にて評価します。

V. 注意点 その他

2回目以降原則として授業始めに小テストを行います。しっかり準備して臨んでください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	解剖学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(52時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

循環器(心臓、動脈、静脈、リンパ系)と消化器系の形態と構造について学修します。

2. 行動目標(SBOs)

1. 心臓、血管、リンパ管の組織構造を学修します。
2. 心臓の弁、出入りする血管、心臓壁、心膜の形態を学修します。
3. 動脈、静脈の分枝、リンパ管の支配域、門脈系、脳循環系、胎児の循環系を学修します。
4. リンパ系器官であるリンパ節、脾臓、胸腺の形態と構造と位置を学修します。
5. 内臓のうち、消化器系の形態と構造について学修します。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 体循環／肺循環・血管	講義
② 心臓の構造・弁・心臓壁・刺激伝導系・心膜	講義
③ 大循環・大動脈弓・頭頸部の動脈	講義
④ 上肢への動脈・下行大動脈	講義
⑤ 骨盤の動脈・頭部の静脈・奇静脈	講義
⑥ 門脈胎児の血液循環	講義
⑦ リンパ管の分布・リンパ節・脾臓・胸腺	講義
⑧ 消化器の位置と形態と構造:唾液腺・歯・舌・咽頭	講義
⑨ 食道・胃・小腸・大腸	講義
⑩ 肝臓、胆嚢、脾臓	講義
⑪ 腹膜後器官	講義
⑫ まとめ	
⑬ ふり返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

岸 清・石塚 寛(著)解剖学(医歯薬出版株式会社)

必要なときにはプリントを配布いたします。

IV. 評価

記述試験

V. 注意点・その他

1. 心臓の位置、形状を理解し、心房・心室と出入りする動静脈を理解して下さい。
2. 大動脈が全身に至る位置とその動脈と個々の器官に分枝する動脈を理解して下さい。
3. 全身の器官から心臓にもどる静脈について理解して下さい。
4. 胎児と成人の血液循環の相違を理解して下さい。
5. 消化器官の構造と位置を理解して下さい。
6. 教科書には上記に関係する解剖用語はゴシック体で掲載されていますので覚えて下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	解剖学Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(50時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

中枢神経系と末梢神経系の走行や働きについて理解する。

2. 行動目標(SBOs)

中枢神経系と末梢神経系の走行や働きについて説明できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

①神経解剖概論 基礎	講義
②中枢神経系	講義
③中枢神経-脳の形態と機能1	講義
④中枢神経-脳の形態と機能2	講義
⑤中枢神経-脳の形態と機能3	講義
⑥中枢神経-脳の形態と機能4	講義
⑦中枢神経 - 脊髄の形態と機能	講義
⑧中枢神経 - 脊髄の伝導路1	講義
⑨中枢神経 - 脊髄の伝導路2	講義
⑩末梢神経系 - 脳神経1	講義
⑩末梢神経系 - 脳神経2	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り授業	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:解剖学(全国柔道整復学校協会監修)、配布プリント、プロジェクター使用

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

暗記が多いのでしっかりと予習復習に取り組むこと。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	解剖学Ⅳ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復実技で行う整復・検査法に関連する部位について、1年次に学んだ解剖学的知識の確認を座学で行い、ランドマークとなる部位の触診を実技で行う。また、整復法は柔道技の技術を応用している所も多く、力学的作用や把持の方法などを柔道から学ぶため、柔道実技への導入としての内容も含めて授業を行う。効率よく体を使い整復法を行えるようになることを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①関連部位の骨・筋を復習し、損傷の状態を把握する。
- ②患部への力学的作用を考え牽引等を行い、自身の身体の使い方を学ぶ。
- ③柔道の基本的動作を学び、技の原理と運動力学の必要性を理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

①. 概要説明	座学・演習
②. 肩部周辺の解剖①(定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼、肩関節烏口下脱臼)	座学・演習
③. 肩部周辺の解剖②(上腕骨外科頸外転型骨折、肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷)	座学・演習
④. 肘部周辺の解剖(肘関節後方脱臼・肘内障)	座学・演習
⑤. 前腕遠位部周辺の解剖(コーレス骨折)	座学・演習
⑥. 診断テスト	座学
⑦. 股関節から大腿部周辺の解剖(大腿四頭筋・ハムストリングスの打撲・肉離れ)	座学・演習
⑧. 膝関節周辺の解剖(膝関節側副靱帯、十字靱帯、半月板損傷)	座学・演習
⑨. 下腿から足関節部の解剖(下腿三頭筋肉離れ、足関節外側靱帯損傷)	座学・演習
⑩. 柔道実技への導入	座学・演習
⑪. 各部位の確認・復習	座学・演習
⑫. まとめ	座学
⑬. ふり返り	座学・演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学理論編・実技編、解剖学

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

興味を持って積極的に受講して下さい。解剖学(骨・筋)をよく復習し、実際に体を動かして実践すること。損傷部に力を加えるということを忘れずに集中して行って下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	生理学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

教科書を中心に、基礎的なものから、柔道整復師の業務の中で役に立つこと、必要な事項に関しては特に詳細に実施する。この授業では、障害の理解につながる正常機能を理解することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

生体の正常な機能と調節メカニズムを理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①1章 生理学とは	講義
②1章 生理学とは	講義
③8章 血液	講義
④8章 血液	講義
⑤8章 血液	講義
⑥8章 血液	講義
⑦9章 骨の生理	講義
⑧9章 骨の生理	講義
⑨10章 循環	講義
⑩10章 循環	講義
⑪10章 循環	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:生理学(全国柔道整復学校協会監修)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

生理学が苦手な方が多いかもしれませんが、単に覚えるのではなく、様々な知識が繋がってくればとても面白い科目です。興味をもって受講してください。わからないところは質問してください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	生理学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(52時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

生理学では、人体の各臓器がいかに機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているかを学習する。

2. 行動目標(SBOs)

各臓器における構造と機能を理解し、解剖学とリンクさせること。生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養うことを目標とする。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①内分泌系の機能(概説)	講義
②ホルモンの種類と作用①	講義
③ホルモンの種類と作用②	講義
④ホルモンの種類と作用③	講義
⑤ホルモンの種類と作用④	講義
⑥ホルモンの種類と作用⑤	講義
⑦ホルモンの種類と作用⑥	講義
⑧ホルモンによる内部環境の恒常性の維持	講義
⑨男性生殖器	講義
⑩女性生殖器①	講義
⑪女性生殖器②	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:生理学(全国柔道整復学校協会 監修)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

生理学は、解剖学や病理学とならび医学の基礎として重要な 1 教科です。興味をもち受講していただければと思います。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	運動学 I
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

骨折・脱臼の整復だけでなく、後療法を行う上で必要な考え方の基礎となる運動学について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

- ①整復動作や運動療法時に有効に力を加えられる様にするにはどうすればよいか学ぶ。
- ②人間の正常な関節運動や歩行、姿勢などについて学び後療法に応用する。
- ③関節運動を理解し、テーピングの技術に応用する。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

①運動学総論	講義
②骨・関節・骨格筋の構造と機能	講義
③神経の機能と構造、反射と随意運動	講義・演習
④四肢・体幹の運動 肩甲骨・鎖骨・肩関節①	講義・演習
⑤四肢・体幹の運動 肩甲骨・鎖骨・肩関節②	講義・演習
⑥四肢・体幹の運動 肘関節①	講義・演習
⑦四肢・体幹の運動 肘関節②	講義・演習
⑧四肢・体幹の運動 手関節・指①	講義・演習
⑨四肢・体幹の運動 手関節・指②	講義・演習
⑩総復習	講義・演習
⑪まとめ	
⑫振り返り	講義・演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

全国柔道整復学校協会監修 運動学改訂第3版

別途、資料を配布する。また、第4回以降宿題として解剖学の復習をしてもらいます。

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

免許を取得し患者さんを診ていくうえで絶対に必要な知識となるのは運動学です。

常に学習の先には患者さんがいることを考えながら授業に参加してください。
宿題を課しますが、次の授業への予習となるので必ず行ってください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	運動学Ⅱ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

骨折・脱臼の整復だけでなく、後療法を行う上で必要な考え方の基礎となる運動学について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

- ①整復動作や運動療法時に有効に力を加えられる様にするにはどうすればよいか学ぶ。
- ②人間の正常な関節運動や歩行、姿勢などについて学び後療法に応用する。
- ③関節運動を理解し、テーピングの技術に応用する。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

- | | |
|-----------------|-------|
| ①四肢・体幹の運動 股関節① | 講義・演習 |
| ②四肢・体幹の運動 股関節② | 講義・演習 |
| ③四肢・体幹の運動 膝関節① | 講義・演習 |
| ④四肢・体幹の運動 膝関節② | 講義・演習 |
| ⑤四肢・体幹の運動 足関節① | 講義・演習 |
| ⑥四肢・体幹の運動 足関節② | 講義・演習 |
| ⑦四肢・体幹の運動 脊柱・胸郭 | 講義・演習 |
| ⑧四肢・体幹の運動 胸郭・顎 | 講義・演習 |
| ⑨姿勢 | 講義・演習 |
| ⑩歩行 | 講義・演習 |
| ⑪運動発達、総復習 | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り | 講義・演習 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

全国柔道整復学校協会監修 運動学改訂第3版
別途、資料を配布する。

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

免許を取得し患者さんを診ていくうえで絶対に必要な知識となるのは運動学です。
常に学習の先には患者さんがいることを考えながら授業に参加してください。
また、自主学習として解剖学の復習をしてきてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	病理学概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(50時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

1. 病的状態の原因と結果を把握し、鑑別診断ができるようになることを最終目標とする。
2. 解剖学、生理学に代表される基礎科目の知識をさらに発展させ、臨床の現場で治療が病気にどのような効果を上げるかを思考できるようにする。

2. 行動目標(SBOs)

1. 医療人として必須である知識を体系的に組み上げる。
2. 正常な身体の構造と機能を正確に把握した上で、1)異常の発見 2)診断 3)原因の究明 4)適切な治療 という行動をいかにして論理的に行うかを学習する。

II. 学習方略

1. 授業日程、 2. 授業内容、3. 授業形態

① 病理学とは、疾病の一般	講義
② 病因(内因)	講義
③ 病因(栄養障害)	講義
④ 病因(物理的外因)	講義
⑤ 病因(化学的外因)	講義
⑥ 病因(生物学的外因)	講義
⑦ 細胞傷害(萎縮、変性)	講義
⑧ 細胞傷害(尿酸・カルシウム・色素・鉄代謝異常)	講義
⑨ 細胞傷害(胆汁色素代謝異常、糖尿病)	講義
⑩ 細胞傷害(老化(動脈硬化症など)、壊死、死)	講義
⑪ 本学期のまとめ(病理学とは、疾病の一般、病因、細胞傷害)	講義
⑫ まとめ	
⑬ 総括と今後の目標設定	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

病理学概論 第3版(全国柔道整復学校協会 監修)

参考書:標準病理学 第5版. 坂本 穆彦監修. 医学書院

IV. 評価

定期試験にて評価する。(100%)

V. 注意点・その他

1. 病理学は基礎科目と臨床科目をつなぐ重要な科目であり、医学の常識であることを認識して取り組むこと。
2. 病理学の理解を深めるために必要によっては解剖学や生理学といった基礎科目を再学習する必要がある。
3. 質問は理解に必須の行動である。必ず回答するので躊躇せず質問すること。
4. 欠席はせっかく積み上げた知識を分断する。必ず出席するように。
5. 私語、不適切な行動は授業妨害・他学生への迷惑行為と判断し退室させる場合がある。その場合、速やかに退室すること。
6. 社会常識に従った最低限の礼儀をもって受講すること。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	外科学概論
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

開業権を有する医療資格の一つである柔道整復師にとって、全身管理や外科的対処法を習得する目的で外科学を勉強することは極めて重要である。外科概論としての外科学の基本的概念、外傷、炎症、腫瘍を伴う疾患、救急処置を必要とする全身的疾患とその対処法、消毒・滅菌法、麻酔・手術を含めた周術期管理、緩和ケア、心肺蘇生法について学習する。昨今流行しているさまざまな感染症などに対する知見を深め、未知の疾患に遭遇しても、冷静に判断、対処できるだけの背景的知識を学習する。

2. 行動目標(SBOs)

1. 医療における外科学の対象範囲の理解
2. 術前検査、手術、術後管理を含めた周術期管理の全般に関する理解
3. 救急救命の処置とその必要性に関する背景的知識の理解

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①外科学とは:外科学の歴史、現在までの外科治療の変遷	講義
②創傷と熱傷	講義
③炎症	講義
④外科感染症	講義
⑤腫瘍 1:腫瘍の分類と症状	講義
⑥腫瘍 2:腫瘍の診断と治療法、疫学	講義
⑦ショック:分類と緊急処置	講義
⑧輸血:適応とその実際、成分輸血製剤とその合併症	講義
⑨輸液:輸液薬の分類と主たる作用、酸塩基平衡、一般輸液と高カロリー輸液の相違点	講義
⑩消毒と滅菌、各種手術法	講義
⑪麻酔:全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔	講義
⑫まとめ	
⑬心肺蘇生法:BLSとACLSの相違点の理解、BLSへの十分な習熟を目標とする。	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:外科学概論、編集:炭山嘉伸、南江堂

参考書:標準外科学、監修:北島政樹、医学書院

IV. 評価

定期試験(80%)、出席(20%)で評価する。

V. 注意点 その他

1. 外科学総論に関する包括的な講義を行う。
2. 教科書を中心とした授業を行うが、臨床現場で実際に遭遇しやすい疾患に対する講義も行う。
3. 出席は重視する。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	整形外科学Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

整形外科の各論的知識を理解し、柔道整復師として臨床上必要な知識、手技について習得することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①整形外科の概説を理解する。
- ②代表的な整形外科疾患の病態について学ぶ。
- ③各疾患の診断法、治療法を理解する。
- ④患者さんに対して各疾患の説明ができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|----------|----|
| ①授業計画、総論 | 講義 |
| ②検査法 | 講義 |
| ③画像検査 | 講義 |
| ④治療法 | 講義 |
| ⑤外傷学 | 講義 |
| ⑥骨・軟部腫瘍 | 講義 |
| ⑦骨系統疾患 | 講義 |
| ⑧感染性疾患1 | 講義 |
| ⑨感染性疾患2 | 講義 |
| ⑩末梢神経 | 講義 |
| ⑪まとめ | |
| ⑫振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:整形外科学(全国柔道整復学校協会監修)南江堂

IV. 評価

定期試験、出席、小テスト

V. 注意点 その他

試験も講義内容から出題するため、日々の講義内容を理解することに努め、予習復習を旨として欲しい。評価に際し、出席、小テストは重視します。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	整形外科科学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

整形外科の各論的知識を理解し、柔道整復師として臨床上必要な知識、手技について習得することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①整形外科の概説を理解する。
- ②代表的な整形外科疾患の病態について学ぶ。
- ③各疾患の診断法、治療法を理解する。
- ④患者さんに対して各疾患の説明ができる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|--------|----|
| ①脊椎疾患1 | 講義 |
| ②脊椎疾患2 | 講義 |
| ③脊椎疾患3 | 講義 |
| ④上肢疾患1 | 講義 |
| ⑤上肢疾患2 | 講義 |
| ⑥上肢疾患3 | 講義 |
| ⑦上肢疾患4 | 講義 |
| ⑧下肢疾患1 | 講義 |
| ⑨下肢疾患2 | 講義 |
| ⑩下肢疾患3 | 講義 |
| ⑪下肢疾患4 | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 整形外科科学(全国柔道整復学校協会監修)南江堂

参考書: 徹底攻略! 国家試験過去問題集(明治東洋医学院編集委員会)医道の日本社

IV. 評価

定期試験、出席、小テスト

V. 注意点 その他

試験も講義内容から出題するため、日々の講義内容を理解することに努め、予習復習を旨として欲しい。評価に際し、出席、小テストは重視します。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	衛生学・公衆衛生学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(50時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師として国民の健康を運動器という観点から守っていくために、人の健康に関わる社会的要因と健康や疾病との関係について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

医療人として人々の健康づくりに貢献することを目指し、わが国における保健・医療・福祉の現状と問題点を認識し、総合的に考察できるよう理解を深める。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

①公衆衛生とは・保健統計	講義
②疾病予防と健康管理	講義
③感染症の予防(前半)	講義
④感染症の予防(後半)	講義
⑤消毒	講義
⑥環境保健(前半)	講義
⑦環境保健(後半)	講義
⑧生活環境・食品保健(前半)	講義
⑨生活環境・食品保健(後半)	講義
⑩内容の復習	講義
⑪まとめ	
⑫振り返り授業	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版(5刷)」 鈴木庄亮 他著 (南江堂)

参考書:公衆衛生がみえる 2021-2022 第4版 (MEDIC MEDIA)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

公衆衛生学と聞くと、とっつきにくい学問のように感じるかもしれませんが、簡単にいうと自分と人々の健康を守るための学問です。社会人として知っておいてほしい内容も多くあります。

暗記するものが多いですので、講義中に重要事項は覚えることを意識して、授業には積極的に臨んでください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	一般臨床医学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(74時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

国試でよく出題されるところを問題演習を通じて重点的に勉強していく。

2. 行動目標(SBOs)

各疾患につき、重要な特徴をあげられるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①循環器疾患その1(狭心症と心筋梗塞)	講義
②循環器疾患その2(大動脈疾患 動脈瘤、大動脈解離)	講義
③循環器疾患その3(末梢動脈疾患)	講義
④循環器疾患その4(先天性心疾患、不整脈)	講義
⑤循環器疾患その5(心臓弁膜症など)	講義
⑥呼吸器疾患その1(COPD)	講義
⑦呼吸器疾患その2(気管支喘息)	講義
⑧呼吸器疾患その3(自然気胸、肺血栓塞栓症)	講義
⑨呼吸器疾患その4(肺癌など)	講義
⑩血液疾患その1(貧血総論と貧血各論前半)	講義
⑪試験対策(今学期に勉強した疾患を振り返り試験に万全に備える)	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:一般臨床医学 改訂3版 医歯薬出版株式会社

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

ただ聞くだけの講義ではない。プリント穴埋め、問題演習、積極的に手を動かしていくこと。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	リハビリテーション医学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(74時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

リハビリテーションとは何かを把握し、基本的な評価や訓練内容を説明できる。また、各種疾患を『障害』という観点から捉え、基本的な対応方法を理解し説明できる。

2. 行動目標(SBOs)

- 1) ICFによる障害の考え方を理解する。
- 2) 各種の評価方法に関する基礎的内容を理解する。
- 3) 理学療法・作業療法・言語聴覚療法に関する治療概要を学習する。
- 4) 脳血管障害や廃用症候群のリハビリテーションについて学習する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|--------------------|------|
| ①リハビリテーションの概論 | : 講義 |
| ②関節拘縮・変形 | : 講義 |
| ③関節可動域測定 | : 講義 |
| ④筋萎縮の基礎 徒手筋力検査法 | : 講義 |
| ⑤整形外科的検査 日常生活活動の評価 | : 講義 |
| ⑥脳血管障害の症状 | : 講義 |
| ⑦高次脳障害 | : 講義 |
| ⑧運動療法 | : 講義 |
| ⑨歩行補助具 装具 | : 講義 |
| ⑩運動失調 | : 講義 |
| ⑪廃用症候群 | : 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬復習 | : 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

- ①用意するもの : リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)

IV. 評価

試験による評価

V. 注意点 その他

講義は基本的にパワーポイントで解説。講義の配布資料は再配布を行いません。
語句の理解など復習を心掛けてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	鑑別診断学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(30時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師が最初に患者に接する場合、初期対応が生命の危険にも影響する病態が存在し得る。適正に病態を把握し、適切な初期治療の後、必要な場合は早急に医療機関への照会ができるよう知識を身につける。

また、講義の後半では、頸部、肩関節から手指までの疾患について、主訴、症状、所見から考えられる疾患を想起し、適切な治療または医療機関に必要な検査の依頼を行える知識を身につける。

2. 行動目標(SBOs)

- ①各疾患の鑑別に必要な知識を身につける。
- ②国家試験で8割以上正解できる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業内容 3. 授業形態

- | | |
|-------------------|----|
| ①外傷総論、外傷性ショックについて | 講義 |
| ②頸部の疾患講義 | 講義 |
| ③意識障害を伴う損傷 | 講義 |
| ④肩関節疾患① | 講義 |
| ⑤肩関節疾患② | 講義 |
| ⑥脊髄症状のある損傷 | 講義 |
| ⑦呼吸障害を伴う損傷(胸部外傷) | 講義 |
| ⑧肘関節疾患 | 講義 |
| ⑨内臓損傷の合併が疑われる損傷 | 講義 |
| ⑩末梢神経障害① | 講義 |
| ⑪末梢神経障害② | 講義 |
| ⑫手部の疾患 | 講義 |
| ⑬手指の疾患講義 | 講義 |
| ⑭まとめ | 講義 |
| ⑮循環障害 | 講義 |
| ⑯腫瘍 | 講義 |
| ⑰炎症 | 講義 |
| ⑱細胞障害 | 講義 |
| ⑲進行性病変 | 講義 |
| ⑳免疫異常・アレルギー | 講義 |

②①先天性異常	講義
②②疾病の一般	講義
②③病因	講義
②④総復習	講義

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

医療の中の柔道整復(全国柔道整復学校協会監修:南江堂)

柔道整復学・理論編(全国柔道整復学校協会監修:南江堂)

配布プリント

Ⅳ. 評価

試験

Ⅴ. 注意点 その他

欠席しないよう心がけてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	医学史 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

医学の歴史に登場する偉人たちの生涯に触れ、医療を志す者としての心構えを養う。また、彼らの業績を知ることを通じて、3年間で学ぶ各科目の学習への動機づけを目的とする。またさまざまな治療法についても、歴史的な背景を理解することで、より深く修得するための基礎的能力を身につける。

2. 行動目標(SBOs)

柔道整復師が医療人として知っておくべき医学(現代医学)に関する基礎知識を歴史的に理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①医学の芽生え、医学の父 ヒポクラテス	講義
②解剖学の歴史「ガレノスの呪縛」	講義
③解剖学の歴史「ヴェサリウス」	講義
④近代外科学の開祖「パレ」	講義
⑤生理学の歴史「ハーヴェイ」	講義
⑥近代病理学の誕生「モルガーニ」	講義
⑦X線の発見「レントゲン」	講義
⑧全身麻酔法の発見	講義
⑨消毒法の発見	講義
⑩近代医学の誕生と医療機器1「腱反射と病的反射」	講義
⑪蘇生術の歴史と実際	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

授業ごとに資料を配布します。

IV. 評価

定期試験により評価する。

V. 注意点 その他

配布された資料は整理しておくこと。

一部、授業の内容により実技を行います。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	医学史Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

本講義では、我が国に伝わる伝統医療である柔道整復術についての起源から、今日の国家資格に至るまでの流れや、西洋医学史の中でも、ヒポクラテスや X 線の発見についてなどの柔道整復師に関連するトピックを取り上げて紹介する。また、講義の後半では現在も大きな問題となっている医療の倫理についての考察をおこない、教員、学生同士のディスカッションを通じながら、医療従事者としての倫理観を養うことを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

柔道整復術を中心とした医学のこれまでの歴史、医療のさまざまな倫理的な問題を知ること、医療従事者としての倫理観を身につける。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

第1回 題目:オリエンテーションおよび医学の歴史(西洋)について

第2回 題目:医学の歴史(西洋史)について

第3回 題目:医学の歴史(東洋史)について

第4回 題目:医学の歴史(柔道整復)について

第5回 題目:医学の歴史(柔道整復)について

第6回 題目:医学の歴史(柔道整復)について

第7回 題目:医療倫理について(生命倫理・出生前診断)

第8回 題目:医療倫理について(生殖医療・脳死臓器移植)

第9回 題目:医療倫理について(尊厳死)

第10回 題目:医療倫理について(実際の治療院でのケース1)

第11回 題目:医療倫理について(実際の治療院でのケース2)

第12回 まとめ

第13回 講義のおさらい

以上の流れで授業を進める予定だが、進捗状況に応じて随時変更する可能性がある。

III. 教育資源(テキスト、その他)

参考図書・参考教材:

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版株式会社 2019 年 全国柔道整復師学校協会監修

IV. 評価

授業への出席や参加態度、授業中のレポート提出、科目試験の成績により総合的に判断する。

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	関係法規 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

社会生活に必要な法律を理解することで、社会人として円滑なコミュニケーションがとれるように学習する。
難解な文章を毛嫌いすのではなく、興味を持って法に触れ自分の考えで行動することを習得する。

2. 行動目標(SBOs)

医療人として必要な法律を理解することで、正しく柔道整復師法を運用することを習得する。
社会人として法令遵守することを身に着ける。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①法について(不文法と成文法)	講義
②六法とその他の法(行政法など)	講義
③患者の権利について	講義
④インフォームドコンセントについて	講義
⑤医療事故と医療過誤について	講義
⑥柔道整復師法 I	講義
⑦柔道整復師法 II	講義
⑧医師法とその他の医療資格の法について	講義
⑨医療法(医療安全センターと医療事故調査・支援センター)	講義
⑩社会福祉法について	講義
⑪個人情報に関する法律について	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:全国柔道整復学校協会監修『関係法規』(南江堂)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

関係法規は柔道整復業務には直接関係はないが、法律を理解することで患者さんの利益を守ることと自身の

資格を守ることができる大切な学問です。 国家試験の必修範囲になっていますので頑張って楽しく学習しましょう。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	関係法規Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(22時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

法律を考える上での基本的な概念を理解し、その上で柔道整復師法について必要な基本的事項を理解する。
また、その他の医事関連法規との接点や境界を考え関連する事項について学習する。

2. 行動目標(SBOs)

柔道整復業務を行うにあたり必要な関係法令はもちろんのこと、社会生活において最低限必要となってくる法的素養を身に付ける。。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①法律について概論	講義
②インフォームド・コンセント	講義
③柔道整復師法① 免許	講義
④柔道整復師法② 業務	講義
⑤民法について	講義
⑥柔道整復師法③ 施術所	講義
⑦柔道整復師法④ 雑則	講義
⑧刑法について	講義
⑨柔道整復師法⑤ 罰則	講義
⑩その他の医事関連法規	講義
⑪その他の医事関連法規	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:全国柔道整復学校協会監修『関係法規』(南江堂)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

国家試験の必修科目でもあるので、法律について興味と関心を持って聞いてほしい。毎回の出席と授業内容の復習を心がけてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道 I
授業形態	実技
単位数(授業時数)	2単位(60時間)

I. 学習目標

1. 一般目標 (GIO)

柔道整復術は柔道との関わりが深く、柔道技の技術を応用しているとも言える。その柔道整復術の基礎となる柔道の知識・技術を学び、実技を行うことにより原理を理解し技術を体得することを目的とする。また、同時に柔道精神を学ぶことにより、精神の修養につとめて人格の完成をはかり医療人として社会に貢献することを目的とする。

2. 行動目標 (SBOs)

- ①柔道を知り、柔道精神や礼法を学ぶ。
- ②準備運動や受身を行い、自身の身体の使い方を学ぶ。
- ③投の形(手技)を学び、技の原理と運動力学を理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①礼法、受身、投技①、乱取の練習	実技
②礼法、受身、投技②、乱取の練習	実技
③礼法、受身、投技③、乱取の練習	実技
④礼法、受身、投技④、乱取の練習	実技
⑤礼法、受身、投技⑤、乱取の練習	実技
⑥礼法、受身、投技⑥、乱取の練習	実技
⑦礼法、受身、固め技①、乱取の練習	実技
⑧礼法、受身、固め技②、乱取の練習	実技
⑨礼法、受身、固め技③、乱取の練習	実技
⑩礼法、受身、固め技④、乱取の練習	実技
⑪礼法、受身、投の形①、乱取の練習	実技
⑫礼法、受身、投の形①、乱取の練習	実技
⑬礼法、受身、投の形②、乱取の練習	実技
⑭礼法、受身、投の形②、乱取の練習	実技
⑮礼法、受身、投の形③、乱取の練習	実技
⑯礼法、受身、投の形③、乱取の練習	実技
⑰まとめ	
⑱ふり返し授業	実技

III. 教育資源(テキスト、その他)

特になし

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

興味を持って積極的に受講して下さい。実際に体を動かして実践することがほとんどなので、ケガをしないように集中して行って下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道Ⅱ
授業形態	実技
単位数(授業時数)	2単位(60時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復術は柔道との関わりが深く、柔道技の技術を応用しているとも言える。その柔道整復術の基礎となる柔道の知識・技術を学び、実技を行うことにより原理を理解し技術を体得することを目的とする。また、同時に柔道精神を学ぶことにより、精神の修養につとめて人格の完成をはかり医療人として社会に貢献することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①柔道を知り、柔道精神や礼法を学ぶ。
- ②準備運動や受身を行い、自身の身体の使い方を学ぶ。
- ③投技を活用して乱取稽古を行い、技の原理と運動力学の応用力を体得する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①礼法、受身、投の形①、乱取の練習	実技
②礼法、受身、投の形②、乱取の練習	実技
③礼法、受身、投の形③、乱取の練習	実技
④礼法、受身、投の形④、乱取の練習	実技
⑤礼法、受身、投の形⑤、乱取の練習	実技
⑥礼法、受身、投の形⑥、乱取の練習	実技
⑦礼法、受身、投の形⑦、乱取の練習	実技
⑧礼法、受身、投の形⑧、乱取の練習	実技
⑨礼法、受身、投の形⑨、乱取の練習	実技
⑩礼法、受身、投の形復習、乱取の練習	実技
⑪礼法、受身、投の形総復習	実技
⑫まとめ	
⑬振り返り	実技

III. 教育資源(テキスト、その他)

特になし

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

興味を持って積極的に受講して下さい。実際に体を動かして実践することがほとんどなので、ケガをしないように集中して行って下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	社会保障制度
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師として開業することも可能であることから医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①社会保障について理解する。
- ②社会保険制度について理解する。
- ③医療保険制度について理解する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①社会保障とは 講義
- ②社会保険とは 講義
- ③社会保険制度とは 講義
- ④社会保険制度とは 講義
- ⑤医療保険制度とは 講義
- ⑥医療保険制度とは 講義
- ⑦医療保険制度とは 講義
- ⑧まとめ
- ⑨振り返り 講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(全国柔道整復学校協会 監修)

参考書:療養費の支給基準:社会保険研究所

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

社会保障制度の中で柔道整復師として療養費の適正な取り扱いができるよう期待しています。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	柔道整復学総論 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

- 柔道整復師の沿革や業務内容について理解する。
- 骨の構造や構成成分について理解する。
- 骨折の分類・症状・合併症のついでの内容を理解する。

2. 行動目標(SBOs)

- 医学用語の意味を正確に理解し、使えるようになること。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-------------------|----|
| ①柔道整復術および柔道整復師の沿革 | 講義 |
| ②柔道整復師の業務範囲 | 講義 |
| ③人体に加わる力/骨の形態と機能 | 講義 |
| ④骨損傷の分類① | 講義 |
| ⑤骨損傷の分類② | 講義 |
| ⑥骨折の症状① | 講義 |
| ⑦骨折の症状② | 講義 |
| ⑧小テスト | |
| ⑨骨折の合併症(併発症) | 講義 |
| ⑩骨折の合併症(続発症①) | 講義 |
| ⑪骨折の合併症(続発症②) | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬ふり返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編(南江堂)

IV. 評価

試験 60 点以上を合格とする(100%)

V. 注意点 その他

- 予習として授業範囲の教科書を一読しておくこと
- 復習として学習内容を理解できたかアウトプットすること

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	柔道整復学総論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(50時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復の業を行うにあたり、骨折以外の個別の疾患の基本となる原理について習得する。

2. 行動目標(SBOs)

関節の構造と機能を学ぶ

関節部損傷の基礎を学ぶ

脱臼の基礎を学ぶ

痛みのメカニズムの基礎を学ぶ

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

① 模擬試験	講義
② 関節の構造と機能1	講義
③ 関節の構造と機能2	講義
④ 関節部損傷の概説と分類1	講義
⑤ 関節部損傷の概説と分類2	講義
⑥ 鑑別診断を要する類症	講義
⑦ 脱臼1	講義
⑧ 脱臼2	講義
⑨ 脱臼3	講義
⑩ 脱臼4	講義
⑪ 脱臼5	講義
⑫ まとめ	
⑬ 振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編改訂第7版(南江堂)

配布プリント

IV. 評価

定期試験にて評価します。

V. 注意点 その他

事前に教科書を読み、理解できない部分を授業にて埋めていくといいでしょう。授業を聞いて理解した後は、必ず覚える時間を持つようにしましょう。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復学総論Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

一般臨床医学は診察の基本と内科疾患の概念を学ぶ学問です。また、柔道整復師にとっては臨床現場で注意を払わなければならない症状や所見の理解を深めるための学問でもあります。本講義では内科疾患を中心に、その症状や所見を捉えるための“問診、視診、打診、聴診、触診、各種検査”などの総論について学習します。

2. 行動目標(SBOs)

- ①医療面接を理解する
- ②視診、打診、聴診、触診を理解する
- ③生命徴候を理解する
- ④基本的検査法を理解する

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

- ①医療面接の意義と方法
- ②視診①
- ③視診②
- ④視診③
- ⑤打診と聴診
- ⑥触診
- ⑦生命徴候
- ⑧感覚検査
- ⑨反射検査
- ⑩代表的な臨床症状①
- ⑪代表的な臨床症状②
- ⑫まとめ
- ⑬振り返り

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書: 全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学

IV. 評価

定期試験にて評価します。

V. 注意点 その他

講義内で実技を実施する際は安全に配慮しつつ、積極的に取り組んで下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	柔道整復学演習Ⅰ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(25時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復の臨床現場や国家試験で必要とされる解剖学の知識を更に深める。

2. 行動目標(SBOs)

内臓系および感覚器系の理解を更に深め、柔道整復学と関連づけられる知識を身につける。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

① 生殖器系2(女性生殖器)	講義
② 消化器系1(消化器の働き・口・唾液腺)	講義
③ 消化器系2(歯・舌・咽頭・食道)	講義
④ 消化器系3(胃・十二指腸・肝臓)	講義
⑤ 消化器系4(肝臓・胆嚢・膵臓)	講義
⑥ 消化器系5(空腸/回腸・大腸・腹膜)	講義
⑦ 感覚器系1(視覚器)	講義
⑧ 感覚器系2(聴覚器/平衡器・外皮)	講義
⑨ 解剖学総合1	講義・演習
⑩ 解剖学総合2	講義・演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

◎紙媒体:解剖学 改定第2版(医歯薬出版株式会社)、配布プリント

◎視覚媒体:人体骨格模型、スライド(パワーポイント)

IV. 評価

試験

V. 注意点・その他

授業では配布プリントを中心に進めていきながら、教科書を都度使用しますので、いずれも必ず忘れないようにすること。また、事前に当該範囲を教科書にて予習をしておき、授業後は配布プリントにて必ず復習し、更なる理解の向上に努めること。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復学演習Ⅱ
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(25時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師として、必要な病理病態学を学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

1. 医療人として必要な知識を積み上げる。
2. 病理病態学を学ぶことで、柔道整復師が扱う疾患の理解を深める。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ① 疾病の一般、細胞障害(萎縮)、ホメオスタシスと臓器間ネットワーク1
- ② 細胞障害(変性、代謝障害)と疾病、ホメオスタシスと臓器間ネットワーク2
- ③ 循環障害と疾病
- ④ 進行性病変と細胞・組織の適応、組織修復・骨折修復
- ⑤ 炎症と疾病
- ⑥ 免疫機能と疾病(免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー)
- ⑦ 腫瘍1
- ⑧ 腫瘍2
- ⑨ 遺伝子と疾病、先天性異常
- ⑩ 病因と疾病1(内因、外因1)
- ⑪ 病因と疾病2(外因2)
- ⑫ まとめ
- ⑬ 振り返り

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:病理学概論. 社団法人全国柔道整復学校協会 監修. 医歯薬出版

教科書:生理学. 社団法人全国柔道整復学校協会 監修. 南江堂

参考書:標準病理学 第5版. 坂本 穆彦監修. 医学書院

IV. 評価

試験

V. 注意点・その他

1. 知識を覚えるだけでなく、論理的思考を磨き、各科目のつながりを形成する。そのためにも知識を活用す

ること。

2. 疑問点は大切にし、解決に向けて積極的に行動すること。

3. 出席は授業の理解にも影響することから、欠席をしないようにすること。

4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。その場合、速やかに退室すること。

5. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学演習Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	2単位(46時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復の臨床現場や国家試験で必要とされる解剖学の知識を更に深める。

2. 行動目標(SBOs)

柔道整復での臨床現場や国家試験で必要とされる運動系および神経系について理解を深める。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| ① オリエンテーション、神経系(A 神経系の基礎) | 講義 |
| ② 運動系の確認テスト/解説、神経系(A 神経系の基礎) | 講義 |
| ③ 運動系の確認テスト/解説、神経系(B 脳) | 講義 |
| ④ 運動系の確認テスト/解説、神経系(B 脳・C 脊髄) | 講義・演習 |
| ⑤ 運動系の確認テスト/解説、神経系(C 脊髄) | 講義 |
| ⑥ 運動系の確認テスト/解説、神経系(C 脊髄・D 末梢神経:脳神経) | 講義・演習 |
| ⑦ 運動系の確認テスト/解説、神経系(D 末梢神経:脳神経) | 講義 |
| ⑧ 運動系の確認テスト/解説、神経系(D 末梢神経:脳神経・脊髄神経) | 講義 |
| ⑨ 運動系の確認テスト/解説、神経系(D 末梢神経:脊髄神経) | 講義 |
| ⑩ 運動系の確認テスト/解説、神経系(D 末梢神経:脊髄神経・自律神経系) | 講義 |
| ⑪ 運動系の確認テスト/解説、神経系(D 末梢神経:自律神経系) | 講義・演習 |
| ⑫ まとめ | |

III. 教育資源(テキスト、その他)

○ 教科書:全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改定第2版 医歯薬出版(株)

参考書は特にありません。こちらで作成したプリントでスライドを使用しながら授業を進めていきます。かなりの枚数になると思いますので、管理用のクリアファイルの購入をお勧めします。そのプリントと教科書は必ず忘れないようにして下さい。

IV. 評価

試験

V. 注意点・その他

解剖学は“かたち”の学問です。文章を何度も読み込むことも必要ですが、その文章からその“かたち(ここでは教科書内のイラスト)”がイメージできるくらいまで反復して学び、

理解することが重要です。授業内ではそこに重点をおきながら進めていきます。主に1年次に履修した範囲ではありますが、更に知識を深めるよう予習・復習を行うようにして下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復学各論Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

各骨折について詳しく勉強する。臨床的経験を踏まえて教科書とリンクさせ授業を進めていく

2. 行動目標(SBOs)

各骨折の特徴的な部分(発生機序、症状、転位、合併症、治療法、後遺症)

また鑑別が必要な疾患まで対応できることを目標とする

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①鎖骨骨折	講義
②鎖骨骨折(治療法)	講義
③肩甲骨骨折	講義
④鎖骨、肩甲骨小テスト、上腕骨近位端部骨折	講義
⑤上腕骨近位端部骨折、上腕骨結節部骨折	講義
⑥上腕骨骨幹部骨折	講義
⑦上腕骨近位端部、上腕骨骨幹部小テスト 肋骨、胸骨骨折	講義
⑧肋骨、胸骨骨折	講義
⑨脊椎骨折講義	講義
⑩脊椎骨折講義	講義
⑪試験対策1	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編 改訂版2版(南江堂)

柔道整復学・実技編 改訂版2版(南江堂)

プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版 医学書院 2011

臨床時のレントゲン写真

IV. 評価

定期試験を実施し100点満点中、6割以上で単位取得とする

V. 注意点 その他

特記事項無し

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復学各論Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

教科書と実技編、臨床現場をリンクさせながら行い理解を深める

2. 行動目標(SBOs)

骨盤骨折から大腿骨遠位端部骨折について、各骨折の特徴や症状、整復、固定法などを学び、臨床での対応力を養う

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①下肢骨折導入	講義
②骨盤単独骨折	講義
③骨盤輪骨折	講義
④大腿骨頸部骨折	講義
⑤大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折	講義
⑥大腿骨頸部骨折	講義
⑦大腿骨骨幹部骨折	講義
⑧大腿骨骨幹部骨折	講義
⑨大腿骨遠位端部骨折	講義
⑩大腿骨遠位端部骨折	講義
⑪疾患の復習	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会 監修)、実技編
配布プリント

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

わからないことがあれば質問する

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅰ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(74時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

ヒトの運動学を学ぶことは、運動の異常あるいはそれを治療していく上で非常に重要である。この授業では、ヒトの運動がどのように実現しているのかについての基本的な知識を習得することを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①ヒトの構造的・機能的運動学について理解する。
- ②どのような外傷によってどのような運動異常が出現するのかを理解するための基本的な知識を習得する。
- ③ヒトの運動学習(運動機能の改善)について理解する

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|------------------|----|
| ①股関節の運動学 Vol.1 | 講義 |
| ②股関節の運動学 Vol.2 | 講義 |
| ③膝関節の運動学 Vol.1 | 講義 |
| ④膝関節の運動学 Vol.2 | 講義 |
| ⑤足関節の運動学 Vol.1 | 講義 |
| ⑥足関節の運動学 Vol.2 | 講義 |
| ⑦頸部・体幹の運動学 Vol.1 | 講義 |
| ⑧頸部・体幹の運動学 Vol.2 | 講義 |
| ⑨顔面・頭部の運動学 Vol.1 | 講義 |
| ⑩顔面・頭部の運動学 Vol.2 | 講義 |
| ⑪姿勢バランス | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:運動学(全国柔道整復学校協会監修)

IV. 評価

定期試験と提出課題にて評価する。

V. 注意点 その他

毎回の授業開始時に簡単な小テストを実施しますので、要点を復習しておいて下さい。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(74時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

生理学的内容のみならず、これまで学修してきたものと関連付けながら理解する。これにより、柔道整復師にとって臨床上必要なものへと定着できることを目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

これまで学修してきた内容をさらに深め、国家試験において得点 80%をとる。

Ⅱ. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、

- ① 生理学の基本的総論
- ② 血液の生理学1
- ③ 血液の生理学2
- ④ 循環の生理学1
- ⑤ 循環の生理学2
- ⑥ 呼吸の生理学1
- ⑦ 呼吸の生理学2
- ⑧ 消化と吸収1
- ⑨ 消化と吸収2
- ⑩ 栄養と代謝
- ⑪ 体温の調整
- ⑫ 尿の生成と排泄1
- ⑬ 尿の生成と排泄2

3. 授業形態

教科書に沿って重要なポイントを書き込み資料を用いて展開する。

各単元終了時に確認テストを実施する。

Ⅲ. 教育資源(テキスト、その他)

生理学 改定第4版(全国柔道整復学校協会監修)

Ⅳ. 評価

試験

V. 注意点・その他

最低限暗記として記憶させないといけないものもあるが、様々な内容を関連付けることで理解を深めることができます。興味をもって取り組んでください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅲ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	4単位(74時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔整理論(脱臼捻挫)分野の総復習を行い、国家試験に備える。

2. 行動目標(SBOs)

国家試験において脱臼捻挫分野の正答率 100%を目指す。

II. 学習方略

1. 授業日程

- ①総論復習
- ②総論復習
- ③手関節・手指の捻挫
- ④手指の捻挫・足部の脱臼
- ⑤股関節・顎関節・脊椎の脱臼
- ⑥肩関節・鎖骨の脱臼
- ⑦肘関節・膝蓋骨・膝関節の脱臼
- ⑧膝関節軟部組織損傷
- ⑨足関節捻挫・アキレス腱断裂
- ⑩総まとめ

2. 授業形態

- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:柔道整復学(理論編)、柔道整復理論サブノート改訂第4版
配布プリント

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

各分野の総復習を行います。各疾患につき重要ポイントの説明を行い、国家試験過去問やオリジナル問題に取り組み、理解を深めていただきます。配布資料や問題には真摯に取り組み、疑問点については必ず教科書で確認すること、また理解しにくい部分があれば積極的に質問し、その日のうちに解決することを心がけてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・昼間コース/夜間コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅳ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

外傷や疾患の症例を題材として、病態を把握し、適切な判断ができるための知識を学習する。

2. 行動目標(SBOs)

柔道整復師に求められる適切な評価や洞察力を身につけ、国家試験の当該分野の出題に正しく解答できるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態

①症例問題考察①	講義
②症例問題考察②	講義
③症例問題考察③	講義
④症例問題考察④	講義
⑤症例問題考察⑤	講義
⑥症例問題考察⑥	講義
⑦症例問題考察⑦	講義
⑧症例問題考察⑧	講義
⑨症例問題考察⑨	講義
⑩症例問題考察⑩	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編(南江堂)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

授業中は自分の知識を総動員し、1症例に対して何が重要ポイントとなるのか考察すること。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅴ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(22時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

国家試験主要教科の柔道整復理論と副教科であるリハビリテーション医学を中心に国家試験に対応できる知識を整理・学習する事を目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

①柔道整復学・リハビリテーション医学の国家試験重要ポイントについて学ぶ。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態 3. 授業形態

①柔道整復学各論対策Ⅰ	講義
②柔道整復学各論対策Ⅱ	講義
③柔道整復学各論対策Ⅲ	講義
④柔道整復学各論対策Ⅳ	講義
⑤柔道整復学各論対策Ⅴ	講義
⑥柔道整復学各論対策Ⅵ	講義
⑦柔道整復学各論対策Ⅶ	講義
⑧リハビリテーション医学対策Ⅰ	講義
⑨リハビリテーション医学対策Ⅱ	講義
⑩リハビリテーション医学対策Ⅲ	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学理論編改定第6版(全国柔道整復学校協会監修)

リハビリテーション医学改定第4版(全国柔道整復学校協会監修)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

適宜プリントを配布する。自主的かつ計画的に予習復習をおこなうこと。疑問点があれば必ず解決すること。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅵ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(22時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復理論各論の下肢の疾患及び骨折について復習し、国家試験に対応できる学力の向上を目的とする。

2. 行動目標(SBOs)

- ①柔道整復理論(各論)の下肢疾患領域について重要ポイントを学ぶ。
- ②柔道整復理論(各論)の下肢骨折領域について重要ポイントを学ぶ。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①下肢疾患(1):腰部	講義・演習
②下肢疾患(2):股関節	講義・演習
③下肢疾患(3):膝関節	講義・演習
④下肢疾患(4):足関節	講義・演習
⑤下肢疾患(5):総合Ⅰ	講義・演習
⑥下肢疾患(6):総合Ⅱ	講義・演習
⑦下肢骨折(1):骨盤骨折・大腿骨近位部の骨折	講義・演習
⑧下肢骨折(2):大腿骨骨幹部・遠位部の骨折	講義・演習
⑨下肢骨折(3):下腿骨近位部・膝蓋骨骨折	講義・演習
⑩下肢骨折(4):下腿骨骨幹部・遠位部の骨折	講義・演習
⑪下肢骨折(5):足関節部の骨折	講義・演習
⑫下肢骨折(6):足根骨・足趾の骨折	講義・演習
⑬下肢骨折(7):総合	講義・演習

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編改定第6版(全国柔道整復学校協会監修)

整形外科学(全国柔道整復学校協会監修)

授業時に配布する資料

IV. 評価

試験

V. 注意点・その他

柔道整復理論各論の下肢骨折・下肢疾患についての出題ポイントを確実に捉え、国家試験問題に対応できる力を身に付けましょう。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学応用講座Ⅶ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(22時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師として、国民の健康を運動器という観点から守っていくために、人口統計・各ライフステージにおける保健・予防医学・環境衛生など国民福祉に関する内容を学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

医療人として人々の健康づくりに貢献することを目指し、わが国における保健・医療・福祉の現状と問題点を認識し、総合的に考察できるよう理解を深める。

II. 学習方略

1. 授業日程

- ①健康指標と疾病予防
- ②感染症の予防
- ③消毒・環境衛生
- ④生活環境・食品衛生
- ⑤母子保健・学校保健
- ⑥産業保健・成人保健
- ⑦成人保健・精神保健
- ⑧地域保健・国際保健
- ⑨保健医療制度・医の倫理・医療安全
- ⑩疫学

2. 授業形態

- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義
- 講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

教科書:「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」 鈴木庄亮 他著 (南江堂)

参考書:公衆衛生がみえる 2022-2023(MEDIC MEDIA)

IV. 評価

試験

V. 注意点 その他

個人を対象とする一般的な医療と違い、公衆衛生学は社会を対象として身体的および精神的健康の増進を図る学問です。国家試験が間近ですので、忘れていた項目がないか確認しましょう。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	臨床柔道整復学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(52時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復業務に従事する中で、様々な疾患や外傷に遭遇する。しかし、すべてが柔道整復師の施術対象ではなく、正しい鑑別を行い、対象となるものにのみ施術を行うことができる。授業を通じて柔道整復師の業務適応について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

- ①柔道整復術が適応となる損傷と、適さない損傷を的確に判断できる知識を修得する。
- ②医接連携や医師その他医療専門職と情報共有ができるための知識を修得する
- ③医用画像の理解

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- | | |
|-----------------------------|----|
| ①柔道整復術の適否を考える | 講義 |
| ②損傷に類似した症状を示す疾患 | 講義 |
| ③血流障害を伴う損傷・末梢神経障害を伴う損傷 | 講義 |
| ④脱臼骨折・病的骨折および脱臼 | 講義 |
| ⑤外出血を伴う損傷 | 講義 |
| ⑥意識障害を伴う損傷 | 講義 |
| ⑦脊髄症状のある損傷 | 講義 |
| ⑧呼吸運動障害を伴う損傷・内臓損傷の合併が疑われる損傷 | 講義 |
| ⑨高エネルギー外傷 | 講義 |
| ⑩柔整師にとっての画像の必要性 | 講義 |
| ⑪疾患別 読影 | 講義 |
| ⑫まとめ | |
| ⑬振り返り | 講義 |

III. 教育資源(テキスト、その他)

施術の適応と医用画像の理解(全国柔道整復学校協会 監修)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

疑問点があれば質問して、必ず解決すること

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	柔道整復実技 I
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	4単位(126時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

基礎包帯について学ぶ(各部位での包帯の名称、巻き方)

(本科目は実務経験のある教員による授業科目である。実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。)

2. 行動目標(SBOs)

上肢帯及び下腿部(一部)の包帯が一定の時間内に巻けるように行う

II. 学習方略

1. 授業日程、	2. 授業内容、	3. 授業形態
①導入、包帯総論		講義
②基本包帯法	前腕折転帯	実技
③基本包帯法	手関節上行麦穂帯(左右)	実技
④基本包帯法	肘部亀甲帯 上腕部(左右)	実技
⑤基本包帯法	上肢総合練習	実技
⑥基本包帯法	小テスト 下巻き作成	実技
⑦臨床包帯法	前腕シーネ作成	実技
⑧臨床包帯法	前腕シーネ作成	実技
⑨臨床包帯法	上腕シーネ作成	実技
⑩臨床包帯法	上腕シーネ作成	実技
⑪臨床包帯法	総合練習	実技
⑫まとめ		
⑬振り返り		講義、実技

III. 教育資源(テキスト、その他)

包帯固定学 改訂版2版(南江堂)

IV. 評価

定期試験を実施し100点満点中、6割以上で単位取得とする

V. 注意点 その他

特記事項無し

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復実技Ⅱ
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	5単位(152時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

骨折や脱臼、軟部組織損傷に対する整復操作及び検査法について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

- ①外傷の処置・手当の専門家である柔道整復師が最低限理解しておきたい、骨折・脱臼の整復法及び軟部組織損傷に対する徒手検査法について修得する。
- ②基礎包帯の技術を活かし、各種疾患に対する固定法についての技術を習得する。
- ③財団実技審査に対応できる技術や口頭試問について修得する。
- ④臨床で用いる手技(整復方法や固定)を修得する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①導入(実技の進度と心構え)	実技・講義
②鎖骨骨折整復法(臨床的実技内容と財団の実技内容)	実技・講義
③鎖骨骨折固定法(8字帯固定法)	実技・講義
④鎖骨骨折整復・固定法の復習	実技・講義
⑤肩鎖関節脱臼整復法	実技・講義
⑥肩鎖関節固定法(絆創膏固定法)	実技・講義
⑦肩鎖関節脱臼整復法・固定法の復習	実技・講義
⑧肩関節脱臼整復法	実技・講義
⑨肩関節脱臼固定法(厚紙副子)	実技・講義
⑩肩関節脱臼整復法・固定法の復習	実技・講義
⑪総合練習	実技・講義
⑫まとめ	
⑬ふり返り	実技・講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・実技編 改定第2版(全国柔道整復学校協会監修)

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

外傷の処置・手当の専門家としての技術を学んでいただきます。

外傷に対する知識だけではなく、処置(手当)を行う前後の患者の状態についての全身状態の確認や患者に対する配慮なども学んでいただきたいと思います。1年生で学んだ基礎包帯の技術を活かして、各疾患の固定法の技術を学んでください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	柔道整復学実技Ⅲ
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	3単位(104時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

骨折や脱臼、軟部組織損傷に対する整復操作、徒手検査法および固定法について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

外傷の処置・手当の専門家である柔道整復師が最低限理解しておきたい、骨折や脱臼、軟部組織損傷の鑑別方法、合併症を確認した上で整復法、徒手検査法および固定法について修得する。

授業時間中は積極的に手を動かし、技術の習得を目指す。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態

①大腿四頭筋打撲	実技・講義
②ハムストリングス損傷	実技・講義
③下腿三頭筋損傷	実技・講義
④膝関節側副靱帯損傷	実技・講義
⑤膝関節十字靱帯損傷	実技・講義
⑥膝関節半月板損傷	実技・講義
⑦膝関節 X サポートテープ固定	実技・講義
⑧第5指中手骨頸部骨折アルミ副子固定	実技・講義
⑨第2指 PIP 関節脱臼アルミ副子固定	実技・講義
⑩足関節外側靱帯損傷テープ固定	実技・講義
⑪小テスト	実技・講義
⑫まとめ	
⑬ふり返り	実技・講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・実技編(南江堂)

IV. 評価

試験 60 点以上を合格とする(100%)

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復応用実技 I
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	2単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

さまざまな頸部疾患についての病態を理解し、その症状、特徴や各種所見からの鑑別方法、治療法について学ぶ。

2. 行動目標(SBOs)

- ①頸部の各種疾患の病態の理解。
- ②神経学的所見の意義と方法について。
- ③鑑別について。

II. 学習方略

1. 授業日程、	2. 授業内容、	3. 授業形態
①頸椎の基礎と機能解剖、鑑別法について		実技・講義
②斜頸について		実技・講義
③頸椎症について		実技・講義
④頸椎椎間板ヘルニアについて		実技・講義
⑤後縦靱帯骨化症について		実技・講義
⑥頸部神経障害の復習		実技・講義
⑦寝違え、むち打ち損傷		実技・講義
⑧腕神経叢損傷(外傷性・分娩麻痺)		実技・講義
⑨胸郭出口症候群		実技・講義
⑩長胸神経麻痺、副神経麻痺		実技・講義
⑪まとめ1		実技・講義
⑫まとめ2		
⑬振り返り		講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

全国柔道整復学学校協会監修 柔道整復学・理論編(改訂第7版)

IV. 評価

定期試験で判定する。

V. 注意点 その他

疾患の理解には解剖学的知識が必要です。各自、骨模型を活用し、不明な点は解剖学の教科書を見直すなど解剖学の復習を怠らないようにしてください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復応用実技Ⅱ
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	2単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

腰部～股関節にかけての各疾患について、定義、原因、病態、症状、診断ポイント、治療法について学ぶ。
それらの内容を理解し、評価・鑑別ができるようになる。

2. 行動目標(SBOs)

上記内容を理解し、評価・鑑別ができるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程 2. 授業形態

① 導入	実技・講義
② 腰部の軟部組織損傷(関節性、靱帯性、筋・筋膜性)	実技・講義
③ 腰椎椎間板ヘルニア	実技・講義
④ 腰椎分離症・腰椎分離すべり症	実技・講義
⑤ 腰椎変性すべり症	実技・講義
⑥ 腰部脊柱管狭窄症	実技・講義
⑦ 下肢神経学的検査	実技
⑧ 発育性股関節脱臼、臼蓋形成不全	実技・講義
⑨ Perthes 病	実技・講義
⑩ 単純性股関節炎	実技・講義
⑪ 大腿骨頭すべり症	実技・講義
⑫ まとめ	
⑬ ふり返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

柔道整復学・理論編(南江堂)
整形外科学(南江堂)
神中整形外科学(南山堂)
最新整形外科学体系(中山書店)ほか

IV. 評価

試験 60 点以上を合格とする(100%)

V. 注意点 その他

周辺の解剖学(骨・筋・靱帯・神経など)について復習が必要

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	柔道整復応用実技Ⅲ
授業形態	実技/講義
単位数(授業時数)	1単位(44時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

顎関節、脊椎、鎖骨、肩関節の脱臼について、各疾患の概要、症状、治療法について学ぶ。臨床での症例も紹介する。

2. 行動目標(SBOs)

- 各関節に関係する解剖学について理解できる
- 各疾患の病態について理解しイメージできる
- 各疾患の病態が把握でき、治療法に継げることができる

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①脱臼総論の復習	実技・講義
②鎖骨の脱臼(肩鎖関節脱臼)	実技・講義
③鎖骨の脱臼(胸鎖関節脱臼)	実技・講義
④顎関節脱臼	実技・講義
⑤顎関節症	実技・講義
⑥脊柱の脱臼	実技・講義
⑦肩関節脱臼1	実技・講義
⑧肩関節脱臼2	実技・講義
⑨肘関節脱臼1	実技・講義
⑩肘関節脱臼2	実技・講義
⑪まとめ1	講義
⑫まとめ2	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

- 自主的かつ計画的に予習復習をおこなうこと
- 疑問点があれば必ず解決すること
- 理解の確認のため、チェックテストを行うことがあります

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・全コース
科目名	臨床実習Ⅰ
授業形態	実習
単位数(授業時数)	1単位(45時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師に関わる可能性がある病院、整骨院、高齢者施設、スポーツ現場などで、どのような活動が行われているのか学び、また、そこで必要とされる評価技術、患者対応について学ぶ。

(本科目は実務経験のある教員による授業科目である。実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。)

2. 行動目標(SBOs)

- ・病院、整骨院、高齢者施設、スポーツ現場などについて知る。
- ・そこで柔道整復師がどの様に活動しているかを知る。
- ・評価技術を習得する。
- ・患者対応の基本を学ぶ。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

1. 臨床実習の概説1
2. スポーツ現場での柔道整復師の活動
3. 病院での柔道整復師の活動
4. 接骨院での柔道整復師の活動
5. 高齢者施設での柔道整復師の活動
6. 評価の基本
7. 基礎評価実習

III. 教育資源(テキスト、その他)

IV. 評価

- レポート提出
- 授業態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・全コース
科目名	臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
単位数(授業時数)	2単位(90時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

これまで履修した専門基礎分野・専門分野科目群で修得した知識をもとに、患者などの対象者との接触を通じて、対応能力と評価能力を向上させる。また、社会的マナーや TP0 に応じたコミュニケーション能力を向上させ、接骨院で実施する評価を学ぶと共に治療に必要な固定法についても学ぶ。

(本科目は実務経験のある教員による授業科目である。実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。)

2. 行動目標(SBOs)

- ・SOAP の流れが臨床(現場)でどのようにして行われているかを理解する。
- ・対象者の傷病や状態を把握した上で、基本的な検査や測定法(ROM、MMT、反射、バイタル、各種徒手検査など)を正確に実施できるようになる。
- ・評価に必要な適切な説明(自己紹介、検査や測定についての説明(わかりやすい言葉で))ができるようになる。
- ・治療に必要な固定方法を習得し、治療の補助ができるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

1. 臨床実習の概説
2. 患者対応について
3. SOAP のについて
4. 病院での評価実習
5. 臨床固定実習
6. 接骨院での評価実習
7. 接骨院での固定補助実習
8. 評価結果の解釈
9. 症例の検討

III. 教育資源(テキスト、その他)

IV. 評価

レポート提出

授業態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・全コース
科目名	臨床実習Ⅲ
授業形態	実習
単位数(授業時数)	1単位(45時間)

●本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

これまで履修した医学、柔道整復学全般にわたる知識と技術、臨床評価実習で習得した評価の実践能力を駆使して治療計画をもとに、総合実習を実施する。臨床実習指導者の施術を見学、補助し、治療計画と治療戦略を共有する。

(本科目は実務経験のある教員による授業科目である。実際に柔道整復師として日常的に臨床に従事していた実務経験を持つ教員が現場で活用していた知識と経験を教授する。)

2. 行動目標(SBOs)

- ・臨床的問題を解決するために学内教育で習得した知識や技術を総動員し、適切な情報を収集し(S、O)、問題を同定し(A)、その解決法を導き出す(P)能力を養う。
- ・一つの症例(事象)に対してさまざまな角度から議論でき、プレゼンテーションできる能力を身につける。
- ・急性外傷については、問診・視診・触診を通じて必要な情報(外観、受傷後の経過時間、急性期/慢性期、合併症、現病歴、既往歴)を収集し、組織修復の過程を考慮して柔道整復師として何をすべきかを考える。
- ・整復や固定時において助手の重要性を理解し、その際の対象者との接し方(受傷部位を考慮して愛護的に)について学ぶ。
- ・整復や固定時の肢位の目的を理解し、施術者のリスク管理、対象者の日常生活の指導管理の重要性を学ぶ。
- ・後療法の実施方法について学ぶ。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

1. 臨床実習の概説
2. 臨床後療法実習
3. 総合臨床実習1
4. 総合臨床実習1
5. 治療結果の解釈
6. 症例の検討

III. 教育資源(テキスト、その他)

IV. 評価

レポート提出

授業態度

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・柔整トレーナーコース
科目名	評価学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(48時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

運動療法を行うには運動器だけでなく、呼吸、循環、代謝、心理など多様な評価が必要となる。
運動療法を科学するために必要な思考過程に触れ、「評価」の意義、楽しさを知る。

2. 行動目標(SBOs)

基礎的な検査測定方法を予習し、臨床課題解決に向けたクリニカルリーズニングの準備を行う。
なぜ？」を考える習慣を作る。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①概論 評価の必要性	講義 group work
②評価の妥当性	講義 group work
③関節可動域制限 1	講義 group work
④関節可動域制限 2	講義 group work
⑤筋力低下 1	講義 group work
⑥筋力低下 2	講義 group work
⑦バランス能力低下 1	講義 group work
⑧バランス能力低下 2	講義 group work
⑨動作観察、分析 1	講義 group work
⑩動作観察、分析 2	講義 group work
⑪まとめ1	講義 group work
⑫まとめ2	
⑬課題作成	講義 group work

III. 教育資源(テキスト、その他)

解剖学、生理学、柔整理論、機能解剖学の書籍
必要に応じて資料を配布

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

Group work を主体に講義を進めていきます。

それぞれが自身の意見を伝え、協働と合意形成を行いますので積極的な姿勢で臨んでください。

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・柔整トレーナーコース
科目名	整復力学
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

整復や運動指導等に必要な、物理学の基礎を学びます。

2. 行動目標(SBOs)

力と速度、加速度の関係を直感的に理解できるようになる。

力のモーメントについての基礎を直感的に理解できるようになる。

熱エネルギーについての基礎を理解し、健康管理や治療に役立てられるようにする。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、	3. 授業形態
①位置と速度	講義
②加速度	講義
③慣性と重量と質量	講義
④運動の法則	講義
⑤作用反作用の法則	講義
⑥運動量と力積	講義
⑦仕事とエネルギー	講義
⑧力のモーメントの基礎	講義
⑨力のモーメントの応用	講義
⑩熱力学の基礎	講義
⑪復習	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

授業で配布するプリント

IV. 評価

定期試験にて評価します。

V. 注意点 その他

学科・学年・コース	柔道整復学科・1年・柔整トレーナーコース
科目名	整復解剖学 I
授業形態	講義
単位数(授業時数)	3単位(50単位)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師にとって筋骨格系に関する解剖学は基本的知識であり、さらに臨床場面においては患者の評価および治療に際し、単なる知識としてではなく、その解剖学知識を触診技術に反映させることが重要である。この科目では、解剖学にて学習した骨解剖学の知識を基に、実際の人体では「どの部位に当たるか」また触診技術として「どのように触るか」といった技術学として学習する。合わせて、関節運動学および病理学もふまえて臨床的知識を学習する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①上肢帯および上肢の骨解剖学を理解し、触診できる技術を修得する。
- ②下肢帯および下肢の骨解剖学を理解し、触診できる技術を修得する。
- ③体幹の骨解剖学を理解し、触診できる技術を修得する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ① 人体の構造および運動学の基礎(運動の面、軸、方向)
- ② 肩甲骨の解剖と触診
- ③ 上腕骨の解剖と触診
- ④ 前腕(橈骨、尺骨)の解剖と触診
- ⑤ 手根骨および手指の解剖と触診
- ⑥ 寛骨の解剖と触診
- ⑦ 大腿骨の解剖と触診
- ⑧ 下腿(脛骨、腓骨)の解剖と触診
- ⑨ 足根骨および足趾の解剖と触診
- ⑩ 体幹(脊椎、胸郭)の解剖と触診
- ⑪ 骨触診技術の確認
- ⑫ まとめ
- ⑬ ふり返し授業

III. 教育資源(テキスト、その他)

林 典雄. 運動療法のための機能解剖学的触診技術. メジカルビュー社

IV. 評価

定期試験

V. 注意点・その他

実際の触診技術を修得していくので軽装で参加するようにする。基本的には実習科目であるので積極的に参加し、多くの学生を触診するようにして個人差を把握する。また、解剖学の知識を復習しながら進めていくので、必要であれば解剖学の講義資料などを持参する。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・柔整トレーナーコース
科目名	整復解剖学Ⅱ
授業形態	講義
単位数(授業時数)	1単位(26時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

柔道整復師にとって筋骨格系に関する解剖学は基本的知識であり、さらに臨床場面においては患者の評価および治療に際し、単なる知識としてではなく、その解剖学知識を触診技術に反映させることが重要である。この科目では、解剖学にて学習した体幹および下肢帯にける筋解剖学の知識を基に、実際の人体では「どの部位に当たるか」また触診技術として「どのように触るか」といった技術学として学習する。合わせて、各骨格筋の機能について、関節運動学および病理学もふまえて臨床的知識を学習する。

2. 行動目標(SBOs)

- ①下肢帯筋の機能解剖学を理解する。
- ②下肢帯の関節運動学を理解し、臨床にて担当する機会が多い症例の特徴を知る。
- ③下肢帯筋の解剖学的位置関係を知り、適切に触診できる技術を修得する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

①股関節の構造と運動学および骨盤帯の筋の機能解剖と触診①	講義
②骨盤帯の筋の機能解剖と触診②	講義
③股関節筋の機能解剖と触診①	講義
④股関節筋の機能解剖と触診②	講義
⑤膝関節の構造と運動学	講義
⑥膝関節筋の機能解剖学と触診①	講義
⑦膝関節筋の機能解剖学と触診②	講義
⑧足関節の構造と運動学	講義
⑨足関節筋の機能解剖学と触診	講義
⑩体幹の構造と筋の機能解剖学と触診	講義
⑪体幹・下肢帯の筋触診技術の確認	講義
⑫まとめ	
⑬振り返り	講義

III. 教育資源(テキスト、その他)

参考書: 林 典雄. 運動療法のための機能解剖学的触診技術. メジカルビュー社

IV. 評価

定期試験

V. 注意点 その他

実際の触診技術を修得していくので軽装で参加するようにする。基本的には実習科目であるので積極的に参加し、多くの学生を触診するようにして個人差を把握する。また、解剖学の知識を復習しながら進めていくので、必要であれば解剖学の講義資料などを持参する。

学科・学年・コース	柔道整復学科・3年・昼間部選択コース
科目名	救急法
授業形態	講義/演習
単位数(授業時数)	1単位(24時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

日常生活およびスポーツイベント、野外活動等において起こり得る病気やけが、事故に対して、その予防的な考え方や、要救助者に何が起きているのか観察する力と対処について、実践的に学習していく。

2. 行動目標(SBOs)

いわゆる一次救命処置を理解する。救命のタイムリミット、緊急度別に観察・評価・対処・連絡がスムーズにできるようになる。

日常生活におけるケガや病気、スポーツの現場や野外活動における危険を予想して対処できるようにする。

授業は、原則として理論学習と実技の両方を行う。理論で学んだことを演習で確認していく。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①救急法授業の流れ・学習の意義 BLS(一次救命処置)の手順の確認
- ②BLS 手順の意味付け、体位の変換、搬送
- ③AED について AED のメカニズム、現場の事案
- ④観察の方法、バイタルサインの見方、触診
- ⑤現在日本の命の危険因子(リスクファクター)、スポーツイベント等での事故事例
- ⑥RICE 処置について
- ⑦創傷について 観察・対処法
- ⑧熱傷 ICE 観察・対処法
- ⑨ケガの対処、身近なものを使って
- ⑩市民救命士講習
- ⑪シミュレーションテスト
- ⑫まとめ
- ⑬振り返り

III. 教育資源(テキスト、その他)

特に定めない

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

資料として主に新聞やニュースになった事案を毎回用意している。資料を入れるファイルを用意のこと。理論学習の後、実技が入ることが多いので、動きやすく、床に寝ころべるような服装準備のこと

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・柔整トレーナーコース
科目名	スポーツトレーナー演習
授業形態	演習/講義
単位数(授業時数)	5単位(76時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

トレーナーとはどのような立ち位置か、どういった技術が必要かを実技を踏まえ行う。

2. 行動目標(SBOs)

- ①トレーナーの役割を理解する。
- ②トレーナーとして必要な技術を習得する。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①スポトレ演習概要説明 足関節捻挫復習① テーピング実技
- ②足関節捻挫復習② テーピング実技
- ③搬送法復習① 搬送
- ④搬送法復習② 搬送
- ⑤膝関節疾患① 講義
- ⑥膝関節疾患② 講義・検査法・テーピング
- ⑦膝関節疾患③ テーピング演習
- ⑧肘関節疾患① 講義
- ⑨肘関節疾患② 講義・検査法・テーピング
- ⑩肘関節疾患③ テーピング演習
- ⑪総復習 試験対策
- ⑫まとめ
- ⑬振り返り

III. 教育資源(テキスト、その他)

なし。適宜資料を配布する。

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

適宜プリントを配布する。自主的かつ計画的に復習をおこなうこと。疑問点があれば必ず解決すること。運動が伴うことがあるのでその際はケガに注意し、アップ、ダウン等各自で行うこと。

学科・学年・コース	柔道整復学科・2年・柔整トレーナーコース
科目名	パーソナルフィットネストレーナー演習
授業形態	演習/講義
単位数(授業時数)	2単位(40時間)

I. 学習目標

1. 一般目標(GIO)

NESTA-PFT 資格取得を目指す

2. 行動目標(SBOs)

- ①運動に関する解剖生理学を理解する。
- ②適切な運動指導ができるようになる。

II. 学習方略

1. 授業日程、2. 授業内容、3. 授業形態

- ①キネシオロジー
- ②生体力学
- ③評価1
- ④評価2
- ⑤柔軟性1
- ⑥柔軟性2
- ⑦運動生理学1
- ⑧運動生理学2
- ⑨運動生理学3
- ⑩安全管理・けがの予防と救急措置(運動生理学)1
- ⑪安全管理・けがの予防と救急措置(運動生理学)2
- ⑫栄養と代謝

III. 教育資源(テキスト、その他)

NESTA-PFT テキスト、問題集、解答と解説

IV. 評価

定期試験にて評価する。

V. 注意点 その他

3月にNESTA-PFT 資格受験する。